

九州地区大学図書館協議会誌

第 68 号

2025

九州地区大学図書館協議会

目 次

【巻 頭 言】

改修前のささやかなMLA連携の試み

・・・・・・・・・・・・・・・・福岡女学院大学図書館長 大 國 眞 希・・・1

【寄 稿 論 文】

学生の図書館利用促進に向けた検討:貸出統計データを利用して

・・・・・・・・・・・・・・・・鹿児島県立短期大学附属図書館 本 田 咲 美・・・3

九州産業大学図書館の地域貢献への挑戦

～絵本コーナーでの活動について～

・・・・・・・・・・・・・・・・九州産業大学 中 村 拓 昭・・・6

『長崎東衛官許』捺印資料の一考察:長崎大学武藤文庫所蔵の蘭書を中心に

・・・・・・・・・・・・・・・・長崎大学附属図書館 宮 脇 英 俊・・・10

【図 書 館 紹 介】

琉球大学附属図書館医学部分館・・・・・・・・・・・・・・・・14

【加盟館ニュース】・・・・・・・・・・・・・・・・16

【図書館活動報告】・・・・・・・・・・・・・・・・40

【事務局報告】・・・・・・・・・・・・・・・・50

【協議会総会記録】・・・・・・・・・・・・・・・・51

【資 料】

九州地区大学図書館協議会会則・・・・・・・・・・・・・・・・55

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則・・・・・・・・56

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則・・・・・・・・57

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規・・・・・・・・61

九州地区大学図書館協議会表彰規程・・・・・・・・61

研修会の補助に関する申合せ・・・・・・・・66

副幹事館の役割・・・・・・・・68

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について・・・・68

九州地区大学図書館協議会の後援名義に関する申合せ・・・・69

九州地区大学図書館協議会メーリングリストの運用に関する申合せ・・・・70

加盟館一覧・・・・・・・・72

役員館一覧・・・・・・・・75

総会当番館一覧・・・・・・・・80

【改修前のささやかなMLA連携の試み】

福岡女学院大学図書館長 大國眞希

はじめに

2010年12月に文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会が「大学図書館の整備について（審議のまとめ）ー変革する大学にあつて求められる大学図書館像ー」を発表してから10年以上の歳月が流れた。2008年頃から注目され始めていたMLA連携（博物館・図書館・文書館の連携）についても、やはり2010年の文部科学省報告書に「MLA連携や公共図書館との連携が重要」と明記され、大学図書館における機能強化の一環として推奨されていた。デジタル元年と称された2020年を越えて、2025年はAIエッジ元年とも呼ばれる。2030年のデジタル・ライブラリーの実現に向けた大学図書館のロードマップも敷かれ、走り出している現在、図書館は未来にむけてどのような姿を見せてゆくことができるのだろうか。

(1) 本学の図書館の現状

本学の図書館は、創立100周年を記念する事業の一環として、戦中戦後の苦難と混乱の時代に学院を守り、学院の礎を築いた徳永ヨシ院長と大学の開設に貢献した柿菌ヤエ院長を記念して1989年に建てられた。閲覧室などのサービススペースは1,002㎡あり、座席数360席、個室、学習室、ゼミ室、PCコーナー、視聴覚コーナーなどを備えている。

建築から36年を迎えた2025年現在、狹隘化対策や時代に応じて更なる機能の向上を図るための改修が計画されている。大学

によって示される方針理念のもと、現実的な制約を勘案しながら、どのような機能を有し、どのようなサービスを提供しうるのか、他図書館への視察をおこない、毎月開催される図書館委員会において検討を重ねている。

(2) MLA 連携の試み

本稿では、改修前の過渡期にあたる今年度におこなった、ささやかなMLA連携の実践について紹介してみたい。

福岡女学院の資料室は、「本学院の歴史及び伝統を後世に継承するために学院史に関する資料の収集、保存、調査、研究等を行い、本学院の発展に寄与する」ことを目的として2014年に設置され、(1)資料の収集、整理及び保存 (2)資料の展示、閲覧、貸出及び情報の提供 (3)学院史の調査及び研究 (4)学院史に関する出版物の編集及び刊行 (5)その他必要と認める事業に携わっており、展示室(104㎡)・書庫(30.83㎡)・作業室(18.26㎡)・事務室兼書庫(40.61㎡)及び資料室保管庫(18.45㎡)から成る。書庫に文書資料、事務室兼書庫には学内発行誌等を保管している。

本学院資料室・大学図書館及び中学校・高等学校図書館にある資料も参照しながら、福岡女学校（現・福岡女学院）の図画教師であった田中冬心について調査した。そして、本資料室を会場として、2025年10月3日から12月19日まで田中冬心展を開催する運びとなった。

冬心は福岡女学院のアイデンティティと

もいえる校章をデザインした教師として歴史に名を刻んでいる一方で、その功績があまりにも輝かしいために、画家としての多様な芸術活動や生徒の個性を重んじた教育への情熱の側面については埋もれがちであった。そこで、冬心の多岐にわたる足跡をたどり、後世に伝えようと本展を企画し、資料室の一面に、説明のパネルほか、絵画や軸・色紙、装幀を手掛けた書籍や日記などを展示した。



田中冬心展のチラシ

一例を挙げると、1933年に玉屋で開催された技芸総合展覧会に出品されたと記されて本資料室で保管されていた布（パッチワーク）が、当該展覧会の会場の様子を記録した写真の

発見によって、どのような形で使用されていたかが明らかとなり、その写真とあわせて現物を展示することもできた。

開催と同時に、図書館においても関連書籍の展示コーナーを設置し、田中冬心展内でも図書館についてお知らせした。さらに、冬心展を見学した大学生たちが、興味をもったものやことについて図書館で書籍を探し、それを各自読み込み、POPを作成して展示する活動もおこなった（書籍には「この本を手にしてくれた方へ」という手紙をつけ、どのような経緯でこの本に至ったのかなどを説明することばも付した）。検索については図書館員によるレクチャーの時間を設け、書籍の吟味やPOP作成については授業での教育活動としておこなわれた。

選書内容をいくつか紹介するなら、田中冬心の芸術活動の発端となった人物のひとりである竹久夢二に関する書籍、本物を知るまなざしとして象徴的に示されていた鯰の絵から鯰と神々に関する書籍、冬心が描

いた大正期の絵に暗さを感じたことからモダニズム期の影を捉えた中山岩太の写真集、上述の布（パッチワーク）を受けて『パッチワークでつづる聖書の世界』など、学生たちそれぞれの個性や志向にあわせて多種多様な広がりを見せた。借りられたことがそう多くなかった本も含まれており、



大学図書館 POPの展示の様子

貴重な蔵書に脚光を当てることもできた。より伝わるPOPを作成するために、選んだ本を片手に、田中冬心展と自分の内的な世界とをつなげていこうとする学生たちの姿も印象的だった。

加えて、中学校・高等学校図書館でも関連書籍のコーナーを設置し、生徒たちの見学ツアーが実施された。



中学校・高等学校図書館 関連の展示

MLA連携により、本学院の有する資源を横断的に活用し、教育活動に資することができたのではないかと思います。今後も学内協働により、資料の共同収集・保存や教育連携などをより活性化していければと考えています。本展は西日本新聞等でも紹介され、学外の方の来訪も見られたことから、地域とのつながりについての重要性にも思い至らされた。

【学生の図書館利用促進に向けた検討：貸出統計データを利用して】

鹿児島県立短期大学附属図書館 本田 咲美

はじめに

鹿児島県立短期大学は、1950年(昭和25年)に開学した南九州唯一の公立短期大学である。附属図書館は、学生の学習および教職員の教育研究に資することを目的として設置されている。各学科の教育課程を考慮した選書を行っているが、年々貸出冊数が減少している(表1)。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
年間貸出冊数	5,720	5,086	4,236	3,798	3,756

表1 過去5年間の年間貸出冊数(学生)

貸出冊数を増やし、図書館の利用を促進するためにどのような働きかけが必要だろうか。貸出統計データから本学附属図書館の利用の状況を明らかにし、具体的な方策を検討する。

(1) 分析の方法

鹿児島県立短期大学附属図書館における、2020年から2024年の学生への館外貸出データを対象とする。教職員への貸出については、今回は対象外とする。

鹿児島県立短期大学は、第一部(昼間部)として、文学科、生活科学科、商経学科の3学科を、第二部(夜間部)として、修業年限3年の商経学科を設置している(表2)。

文学科	日本語日本文学専攻
	英語英文学専攻
生活科学科	食物栄養専攻
	生活科学専攻
商経学科	経済専攻
	経営情報専攻
第二部商経学科	

表2 鹿児島県立短期大学の学科・専攻

学生数については、公立短期大学実態調査¹⁾で公表している数値を用いる。過去5年間の本学の学生数の推移は表3のとおりである。

	2020	2021	2022	2023	2024
学生数	629	639	615	583	545

表3 過去5年間の学生数の推移

(2) 結果

①令和6(2024)年度の月別貸出冊数

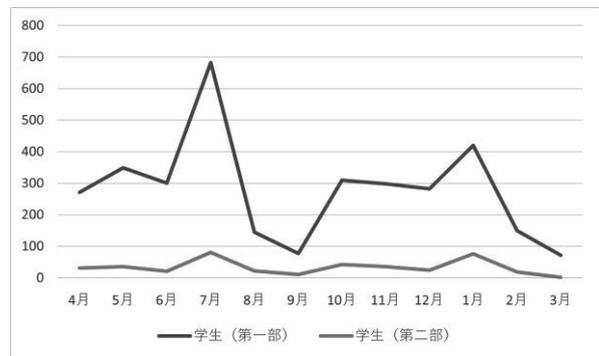


図1 令和6(2024)年度の月別貸出冊数

第一部第二部ともに学生の貸出冊数が増加するのは7月と1月である。これは、期末試験やレポート作成のために貸出が増加しているものと考えられる。反対に、長期休暇中の8~9月及び2~3月は貸出が減少している。

②過去5年間の月別貸出冊数の推移(第一部学生)

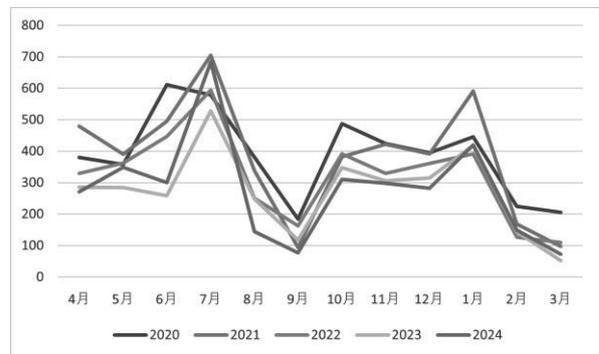


図2 過去5年間の月別貸出冊数の推移(第一部学生)

いずれの年度でも、前期末試験前の6月もしくは7月、後期末試験前の1月に貸出冊数が増加し、長期休暇中の8~9月及び2~3月は貸出が減少し

ている。

③過去5年間の月別貸出冊数の推移(第二部学生)

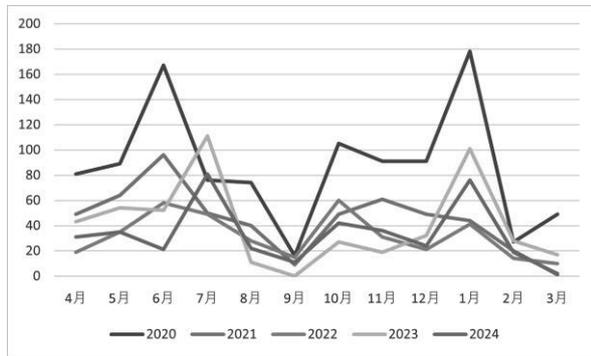


図3 過去5年間の月別貸出冊数の推移(第二部学生)

年によって変化はあるものの、第一部学生と同様に、試験前に増加し長期休業期間中に減少している。

④令和6(2024)年度の所属別貸出冊数

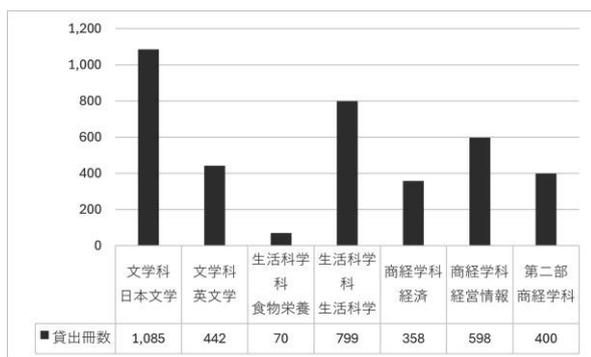


図4 令和6(2024)年度の所属別貸出冊数

令和6年度に最も貸出冊数が多かったのは日本語日本文学専攻であり、少なかったのは食物栄養専攻であった。割合を表すと、図5のようになる。

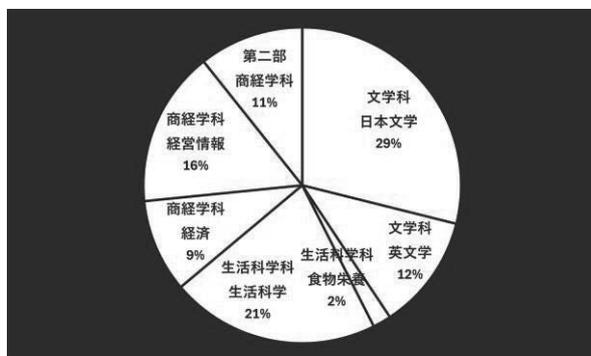


図5 令和6(2024)年度の所属別貸出(割合)

文文学科2専攻の貸出が全体の4割を占めていた。一方で食物栄養専攻はわずか2%と、その

少なさが際立っている。

ここで学生数の違いを考慮するため、各専攻の貸出冊数をその専攻に所属する学生数で除して、一人当たりの貸出冊数を算出した。(図6)。

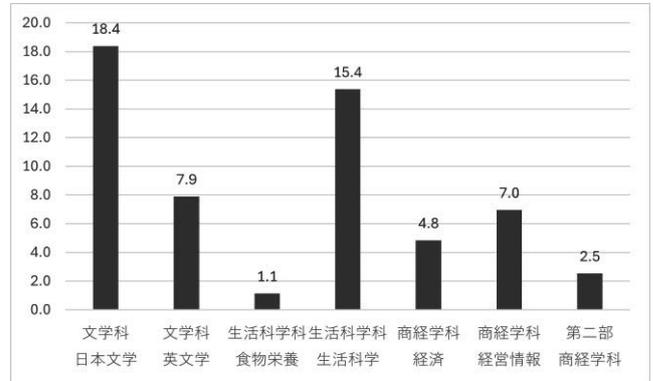


図6 令和6(2024)年度の所属別一人当たり貸出冊数

一人当たりの貸出冊数で比較しても、最も貸出冊数が多い専攻は日本語日本文学専攻で、最も貸出冊数が少ない専攻は食物栄養専攻であった。その差は約17冊と大きく開いている。

一人当たりの貸出冊数について、過去5年間の推移を表したものが図7である。

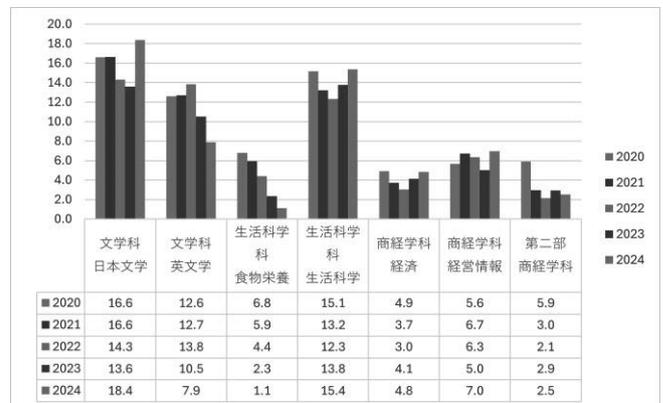


図7 過去5年間の所属別一人当たりの貸出冊数

令和6年度に貸出冊数が最少となっているのは、英語英文学専攻と食物栄養専攻である。ピーク時からの冊数と比較すると、一人当たりの冊数が英語英文学専攻では5.9冊、食物栄養専攻では5.7冊減少している。

⑤分類別貸出冊数

令和6年度の貸出を分類別にみると、最も多いのが9類(文学)であり、次いで3類(社会科学)となっていた(図8)。

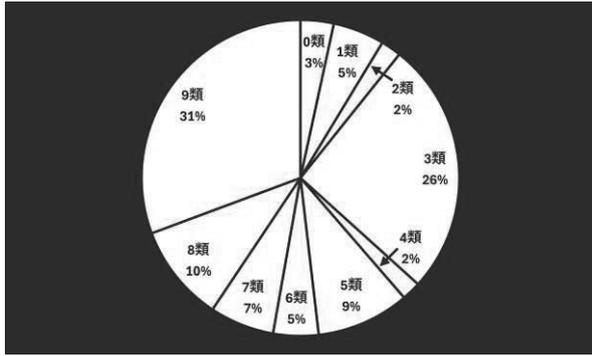


図8 令和6(2024)年度の分類別貸出(割合)

9類のうち、最も貸出が多かった綱目は91(日本文学)であった(全体の約25%)。日本語日本文学専攻の学生が調査研究に用いたこと、そして本学附属図書館では小説も多く購入していることも影響していると考えられる。

また、3類で最も貸出が多かった綱目は33(経済)であった。商経学科の学生の利用が多かったものと推測される。

一方で、栄養学関連の資料を配架する4類の貸出は少なく、食物栄養専攻の学生の図書の利用の少なさはこの点からも明らかになっている。

ここまでで判明した本学附属図書館の学生の利用の特徴をまとめると、次のようになる。

- ・前期末試験前(6~7月)と後期末試験前(1月)に貸出冊数が増加、長期休業期間中(8~9月、2~3月)に貸出冊数が減少する。

- ・専攻別に貸出冊数を比較すると、令和6年度に最も多かったのは日本語日本文学専攻で、少なかったのは食物栄養専攻だった。これは、一人当たりの冊数で比較しても同じ結果であった。

- ・分類別に貸出冊数を比較すると、令和6年度は9類(文学)の貸出が最も多く、次いで3類(社会科学)の貸出が多かった。栄養学関連の資料を配架する4類の利用は少なかった。

(3) 今後の利用促進に向けて

本学附属図書館の利用の現状を踏まえ、今後の利用促進に向けた方策として、まずは次の2つを考えている。

①長期休暇期間中の利用増に向けた広報活動の実施

貸出冊数が減少する長期休業期間中にも、図書館を利用してもらうため、積極的に広報活動を実施する。例えば夏季休業中であれば、4年制大学への編入試験対策に有用な図書の紹介や、就職試験対策のための図書の紹介等を行う。学習の場としての図書館の活用も積極的に広報していきたい。

②食物栄養専攻の学生への図書館利用促進キャンペーンの実施

専攻間で比較した際に貸出冊数が最も少なかった食物栄養専攻の学生に重点をおき、図書館利用促進キャンペーンを実施する。例えば、栄養士資格取得のために有用な図書や、実習時に役立つような栄養学関連の図書、レシピが掲載されている図書等を紹介する。加えて、図書館にどのような資料があれば利用したくなるか、アンケート調査や聞き取り調査を実施し、学生のニーズを捉えた選書につなげていきたい。

いずれの方策も図書館が単独で実施するのではなく、教員と連携して取り組むことで、より高い効果が得られるものとする。そのため、教員にも積極的に働きかけ、学生の図書館利用を促していきたい。

また、今回は貸出統計データを利用した分析であったため、大きな枠組みでしか図書館利用の実態を捉えられていない。今後はより詳細なデータ分析を継続して実施し、学生の利用動向をしっかりと把握していきたい。

参考文献

1) 全国公立短期大学協会公立短期大学実態調査.(オンライン)(引用日:2025年11月27日.)
<https://www.kotankyo.jp/report/research/>.

【九州産業大学図書館の地域貢献への挑戦】

～絵本コーナーでの活動について～

九州産業大学 中 村 拓 昭

はじめに

九州産業大学図書館は、造形短期大学部図書館を合わせて約 84 万冊の蔵書を持っている。2021 年度から始まった本学中期計画「文理芸融合のグローバル総合大学へ」のスローガンのもと、教育基本法に明示されている大学の使命「教育、研究、社会貢献」を基軸に取り組んでいる。その中で、社会・地域貢献の一つ「地域に向けた知の発信」としての図書館の役割から、2024 年 9 月から一般開放した「絵本コーナー」の取り組み事例を紹介し、現状と課題・展望について述べる。

(1) 地域連携として私設図書館との連携

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」（平成 22 年 12 月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）の「大学図書館に求められる機能・役割」のなかで、4 つの項目が提言されている。

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
3. コレクション構築と適切なナビゲーション
4. 他機関・地域等との連携及び国際対応

この「他機関・地域等との連携」では、「大学図書館の役割を果たすためには、学内の多様な組織との連携の他、学外の関連機関との連携も重要」と提言されている。本学図書館も 2021 年から始まった中期計画「文理芸融合の

グローバル総合大学」を目指すべく、大学のミッションの一つ「社会・地域貢献」の一つとして「地域に向けた知の発信」を取り組むこととなった。

医療法人元気が湧く絵本と図鑑の親子ライブラリービブリオキッズ（以下、「ビブリオキッズ」という。）と本学図書館が連携協議を開始したのは、2022 年だった。初年度は、ビブリオキッズの持っている知財と本学図書館の知財をどのような形で連携していくのか、という協議から始まった。まずは、ビブリオキッズが主催している「絵本アワード」の審査委員を本学図書館職員が務めることから始め、双方のイベント参加を通して理解を深めていった。

2023 年から「連携企画」として、本学図書館で絵本に特化した展示、ビブリオキッズ主催の「図鑑の日」ワークショップを本学学生・教職員が連携して担当するようになり、現在に至っている。また、2025 年 6 月には連携に関する覚書を締結した。

一方、本学図書館も 2024 年 9 月に「絵本コーナー」を 4 階から 1 階へ移設し、これに伴い保護者同伴を条件として幼児・児童の絵本コーナー利用を開始した。開始して 1 年が経過し、中期計画「地域に向けた知の発信」が軌道に乗り始めた。

(2) 学園の中期計画に対する取り組み

中期計画が開始される 2021 年 4 月よりも前、2019 年 11 月に中期計画でのスムーズな実施に向けて学内で「17 の課題」が提示され

た。中期計画立案に向けての準備段階で既に課題が提示され、事業推進するための根拠づくりを始めなければならなかった。当時、私は「リカレント教育・リスクリング教育の実施」に向けて取り組んでおり、他部所の中期計画と事業推進について、目を通していたものの記憶に残らない状況だった。

図書館へ着任した初日に、図書館の現状と事業計画の進捗状況についてレクチャーを受けた。当時の図書館は、事業計画と実施状況、予算額などが立案どおりに進行しているとはいえなかった。大学の事務局には、各部所に数名は「企画担当」がいる。国立大学では各部所に「企画課」や「企画係」が存在しているように、私立大学でも企画担当はいるのだが、本学図書館は、その担当者が絶対的に不足していた。「絵本コーナー」の開設は、その典型のようなもので開設は決定しているものの、周知方法、広報戦略、運営方法などから立案することとなった。

(3) 周知・広報戦略

「絵本コーナー」を開放するどころか、大学図書館を一般開放している大学は少なく、加えて中学生以下0歳児までの利用を認めている大学図書館は皆無に等しかった。インフラ整備として補助便座付きのトイレ改修と授乳室の設置は終えていた。絵本は、本学が芸術学部を有しており、絵本を卒業制作として作成する学生がいること、絵本作家の卒業生もいることから、若干の絵本は所蔵していた。また、2018年に人間科学部子ども教育学科が開設され、設備図書として絵本を整備する必要があったことから、ある程度の冊数を持っていた。しかし、絵本コーナーの開設が決まった段階で絵本を設備図書で増冊し、約6,000冊を配架するコーナーが完成していた。

問題は、周知・広報戦略だった。私の経験測で述べると、飛び込み広報で周知できるような内容ではないと当初は思っていた。また

確実に実績を残さなければならない状況でもあった。私は、前部所で実習関係の仕事をしていたことから、大学近隣の幼稚園、保育園の先生方と若干面識があった。細いくもの糸のようなコネクションを頼りに、飛び込み広報で近隣の保育園を訪問し、人事異動の挨拶を兼ねて絵本コーナー開設の周知を行った。

ところが、保育園で案内をしたところ、「いつから出来たの?」「保育園児を連れて行っていい?」と想定外の反応に驚いた。これがひとつの保育園でなく、2つ、3つと訪問する保育園すべてが好反応だった。これは本当に起きた話だが、私が某保育園を訪問し、大学図書館に戻っている途中で保育園からの来館予約の電話が入り、事務室が騒然となってしまった。図書館は「知財」の宝庫であり、その図書館に乳幼児が入ることができるというのは、保育園側からすると魅力満載の企画だったのかと後々気づくこととなった。

(4) 絵本コーナーでの取り組み

先述のとおり、広報戦略の段階でヒットするとは想定外だったことから、絵本コーナーで何をすべきなのかを考える必要があった。いわゆる「学習指導案」や「設定保育」といわれるものを作成する必要があった。入試部にいた経験から小学生・中学生の来訪見学で大学説明をしたことはあったが、5歳児に対して同様の説明を行った経験はなかった。マニュアルなど作成する余裕もなければ知識もなかった。唯一参考としたものは文部科学省「幼稚園教育要領」の内容だった。幼稚園教育の基本に関して重視する事項として「幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」「遊びを通しての総合的な指導がおこなわれるようにすること」「一人一人の特性に応じた指導が行われること」の3点が挙げられている。その前提となるのは環境を通して教育を行うことである。来館する保育園での保育指針、幼稚園の教育方針はそれぞれ

れ異なることから、そこは事前に要望を伺い、臨機応変に図書館という「遊び」と「場（環境）」の提供に徹することとした。遊びを通して学ぶことは乳幼児も大学生も大人も同じことであり、教育の原点ともいえる「絵本を通して遊ぶ」ことを念頭に置いて、取り組むこととした。

おおよそのパッケージは、現在は出来上がっており、冒頭挨拶に代えて図書館職員による絵本の読み聞かせをしたのち、図書館の利用方法（返却方法、トイレの案内）をして、自由に絵本を手にとって読む、というものである。各園では、先生が帰る前に絵本の読み聞かせをしたり、未満児は図書館前の広場で遊ばせたりと、基本的に滞在時間は1時間で編成している。

とはいえ、最初は試行錯誤しながら対応をせざるを得ず、毎回来館対応したあとは他の業務が手につかない日々が続くこととなった。しかし、対応の負荷が大きかった一方で、来館した子どもたちは保育園に戻ると「楽しかった」「また、行きたい」と保育士に連呼していたと報告を受けた。自宅に帰っても、子どもたちは図書館での出来事を保護者に話していたとのことで、その出来事が保育園側に連絡帳などでフィードバックされていたようである。園児と保護者の声に対応すべく、保育園から再度来館申込が入り、リピーターの保育園がつくこととなった。保育園では電子連絡帳が主流となっており、写真付きで図書館への園外保育の状況や、InstagramなどのSNSの発信や口コミで徐々に近隣の保育園から来館者が増えていった。

本学のある福岡市東区の幼稚園の多くは送迎用の幼稚園バスを所有しているところが多く、本年度に入り、幼稚園バスを利用して来館する園が現れた。ジタバタしながら奮闘した結果、絵本コーナーを開設して1年間で、のべ1,000名の小学生以下の来館者数を挙げることができた。

(5) 課題と展望

絵本コーナーを一般開放して1年が経過したばかりである。利用者の声を、私の聞き取り調査の限りで挙げてみると次の3点かと推察される。

1. 近隣（徒歩圏内）に公共図書館がない
2. 絵本の配架状態が良い
3. 乳幼児が好む絵本が常にある

まず、近隣に公共図書館がないのは、移転したためである。以前は、本学の徒歩圏内に市立図書館があったのだが、老朽化等の理由で3キロメートルほど離れた場所に移転した。これは、乳幼児やその保護者からすると「遠い」距離であり、その代替施設として本学図書館が担う「市場」があった。そのため、保育園や幼稚園の「読書活動」の推進の場、散歩コースの一つに加わることとなった。

絵本の状態が良いことと乳幼児が好む絵本が常にあるというのは、大学図書館ならではの事象と推察される。そもそも、絵本は先述のとおり学生の「教材」としての要素が強いことから、教職課程や保育士養成課程の講義で使う絵本、教育実習・保育実習等で読み聞かせ用で使う絵本の貸出が多く、乳幼児が好きな「アンパンマン」シリーズや「機関車トーマス」シリーズなどの絵本は、学生が頻繁に借りることはない。そのため、乳幼児が好む絵本が常に状態が良く、いつも配架されていることになる。

ビブリオキッズの司書である安藤宣子氏が本学の講演のなかで「子どもは絵を見ており、字を読んでいるのは大人である」という話があった。これを、保育園児たちが館内で読んだ本の閲覧数から分析すると、「洋書」と「しかけ絵本」が上位を占める結果となった。絵をみており文字を読んでいないことが数字として明らかとなった。今後、絵本コーナーの選書に大いに役立つデータを得ることができた。

事業推進の観点、人材育成の観点など課題

は山積だが、一つ一つ取り組んでいくことが地域貢献の第一歩であると考え。地域に開かれた大学図書館としての挑戦は、緒についたばかりであるが、細く長く挑戦を続けていくことが最大の課題である。

参考文献

1. 大学図書館の整備について(審議のまとめ)
—変革する大学にあって求められる大学図書館像— (平成 22 年 12 月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)
2. 文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 30 年 3 月)

【写真参考】



【『長崎東衛官許』捺印資料の一考察：長崎大学武藤文庫所蔵の蘭書を中心に】

長崎大学附属図書館 宮脇英俊

はじめに

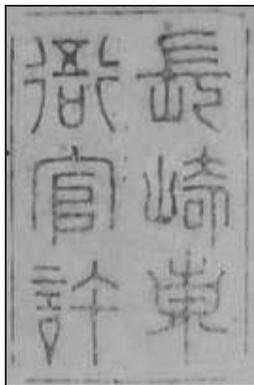
長崎大学附属図書館経済学部分館には、貴重書コレクションとして「武藤文庫」が所蔵されている。これは、長崎大学経済学部の前身である長崎高等商業学校において経済史を担当していた武藤長蔵教授の旧蔵書であり、図書約1万点に加え、書画・絵画・陶器等約200点を含む膨大な資料群である。

その蔵書構成は経済史にとどまらず、図書館分類における0類から9類までの全分野を網羅しており、武藤教授の学問的関心が極めて広範であったことを示している。

本稿では、武藤文庫に含まれる蘭書のうち、タイトルページに「長崎東衛官許」の印が捺された資料について報告し、当該印の歴史的意義と他機関における所蔵状況を概観する。

この印は、幕末の徳川幕府が長崎奉行に命じた輸入洋書の検査制度に基づくものであり、その職務は長崎奉行所立山役所が担った。検査を通過した洋書には「長崎東衛官許」の印が捺され、この検印は、幕末期に日本へ舶載された洋書が、公式な検閲を経て国内に流通したことを示す重要な手がかりとなる。

この印に関する記述は、江戸町奉行所編纂の行政資料『市中取締続類集』にも見られる。同書には、長崎屋源右衛門に蘭書販売を許可する際、長崎から送付される蘭書に本印が捺されている旨が記録されており、本検印が幕府公認の「輸入・流通証明」として機能していたことがわかる。(国立国会図書館デジタルライブラリー、<https://dl.ndl.go.jp/pid/2572381/1/65>)



【長崎東衛官許の印影】



【出典：国立国会図書館デジタルライブラリー】

「長崎東衛官許」印の由来と意義

当協会誌66号に掲載された拙稿『江戸幕末期に印刷された長崎版洋書について』の執筆過程で、あるオランダ語書籍のタイトルページに「長崎東衛官許」の印影を確認した。初見時には読み方も不明であったが、「ながさき-とうが-かんきよ」と読むことが判明した。

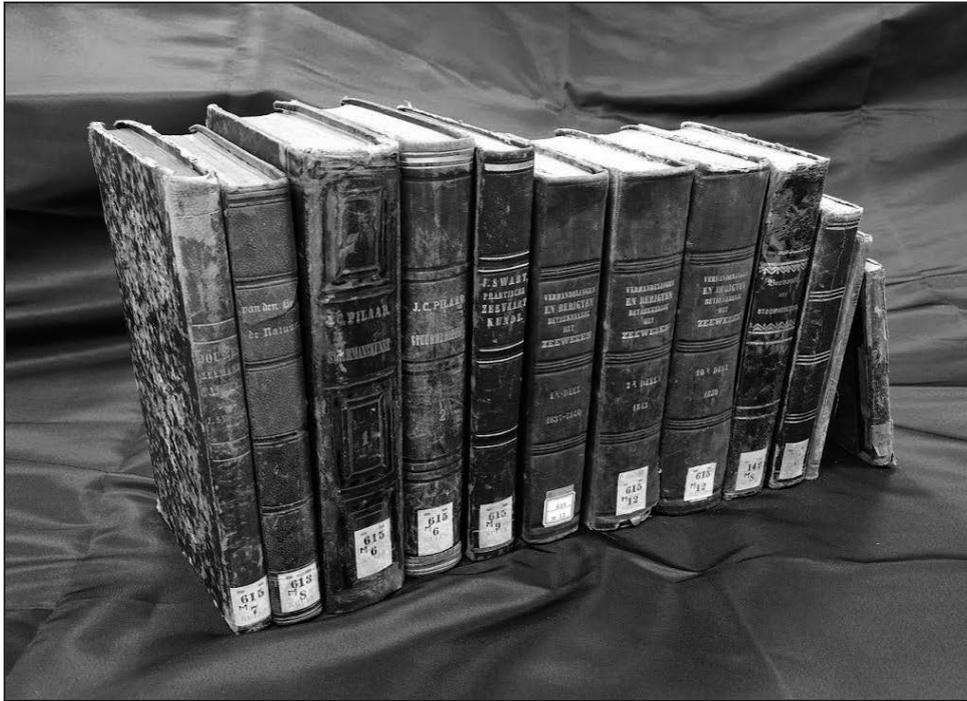
武藤文庫での長崎東衛官許印捺蘭書の確認

武藤文庫において、当該印が捺された蘭書は初見の1冊に加え、さらに11冊が確認され、計12冊の存在が判明した。その後の調査により、さら

に2冊が追加され、現時点で合計14冊が確認されている。以下に、確認された書誌情報を一覧で示す(書名、著者、出版地・年、請求記号、図書番号、和訳タイトルを含む)。

図書一覧(「長崎東衛官許」印捺蘭書)

No.	書名(和訳タイトル) / 著者 / 出版地・出版社 ; 出版年(請求記号, 図書番号)
1	<i>Handleiding tot de kennis van het stoomwerktuig</i> (蒸気機関案内書) / Christoph Bernoulli, G. Kuyper / Amsterdam : C.F. Stemler ; 1856 (142 M8, 3819748)
2	<i>De natuur</i> (図表解題物理書) / J.H. van den Broek / Leiden : D. Noothoven van Goor ; [1853](613 M8, 3821533)
3	<i>Handleiding tot de beschouwende en werkdadige stuurmanskunst : 1deel</i> (航海術指南書 第1巻) / J.C. Pilaar / Amsterdam : Wed G. Hulst van Keulen ; 1847 (615 M6, 3821556)
4	<i>Handleiding tot de beschouwende en werkdadige stuurmanskunst : 2deel</i> (航海術指南書 第2巻) / J.C. Pilaar / Amsterdam : Wed G. Hulst van Keulen ; 1847 (615 M6, 3865592)
5	<i>Vernieuwde uitgave van Douwes zeemanstafelen of grondbeginselen der dadelijke zeevaartkunde.</i> (航海年鑑) / Jacob Swart / Amsterdam : Hulst van Keulen ; 1853 (615 M7, 3821557)
6	<i>Handleiding voor de praktische zeevaartkunde</i> (実用航海術) / Jacob Swart / Amsterdam : W.G. Hulst Van Keulen ; 1856 (615 M9, 3821559)
7	<i>Verhandelingen en berigten betreffende het zeezezen en de zeevaartkunde. 10 deel</i> (最新航海術入門書 第10巻) / G.A. Tindal, Jacob Swart / Amsterdam : Wed G. Hulst van Keulen ; 1850 (615 M12, 3865372)
8	<i>Verhandelingen en berigten betreffende het zeezezen en de zeevaartkunde. 3 deel</i> (最新航海術入門書 第3巻) / G.A. Tindal, Jacob Swart / Amsterdam : Wed G. Hulst van Keulen ; 1843 (615 M12, 3821563)
9	<i>Verhandelingen en berigten betreffende het zeezezen en de zeevaartkunde. 1 deel</i> (最新航海術入門書 第1巻) / J.F.L. Schroder / Amsterdam : Wed. G. Hulst van Keulen ; 1837-1840 (615 M12, 3821562)
10	<i>Nederduitsche spraakkunst ten dienste der scholen</i> (学校用蘭文典) / P. Weiland / Dordrecht : Blussé en van Braam ; 1854 (701 M8, 3821684)
11	<i>Scheepstermen en kommando's in de Hollandsche en Maleische talen</i> (舵手・砲手用蘭馬語彙) / J. Buechler, P.A. Leupe / Kampen : Fels ; 1849 (706 M56, 3821882)
12	<i>Van der Pijl's Gemeenzame leerwijs, voor degenen, die de Engelsche taal beginnen te leeren</i> (英語入門書) / R. van der Pijl / Nagasaki : [s.n.] ; 1857 (706 M61, 3821888)
13	<i>Geographische Oefeningen, of, Leerboek der aardrijkskunde, mit xxv genommerde kaarten. 5. Druk</i> (地理学教程) / P.J. Prinsen / Joh. Noman en Zoon ; 1845 (500 M5, 3820923)
14	<i>Volks-natuurkunde</i> (理学訓蒙) / Johannes Buijs / Nagasaki : Nagedrukt te Nagasaki ; 1858 (613 M24, 3821550)



【長崎東衛官許印が捺された武藤文庫の蘭書】

これらの資料は、長崎の出島に陸揚げされ、奉行所の検閲を経て日本各地に流通した、西洋の最新知見を伝える貴重な一次資料である。

他機関における所蔵状況

「長崎東衛官許」印が捺された資料は、他の研究機関にも所蔵されている。各機関のデータベース等に基づく確認結果は以下の通りである。

機 関 名	所蔵点数 (確認可能分)
国立国会図書館	2 点
静岡県立中央図書館葵文庫	91 点
慶應義塾大学附属図書館	6 点
早稲田大学図書館	7 点
金沢大学附属図書館	4 点
京都大学附属図書館	9 点
長崎大学附属図書館	14 点

江戸幕府旧蔵書コレクションである静岡県立中央図書館葵文庫を除けば、他機関と比較しても、同種図書の所蔵数が多いことは、長崎が果たした歴史的役割と、武藤文庫の学術的価値を再認識させるものである。

蔵書印から読み解く流通経路

「長崎東衛官許」印の捺された図書は、当時の西洋の最新知見が日本各地に流通する第一歩の証である。武藤文庫所蔵の“*De Natuur*”には「福山誠之館印」が確認されており、これは同書がかつて備後国福山藩の藩校で使用されていたことを示している。その後の流通経路は不明であるが、武藤教授の手に渡り、最終的に長崎大学附属図書館に収蔵されたという興味深い流転の経路が明らかとなる。

出島に荷揚げされ、奉行所の検査を経て、広島藩校で教育資料として活用され、再び長崎に戻った蘭書は、まさに歴史の生き証人である。



【タイトルページに捺された蔵書印の例】

おわりに

本調査により、長崎大学附属図書館の武藤文庫に「長崎東衛官許」の検印が捺された図書が複数存在することが確認された。これらの資料は、幕末から明治期の日本の知の受容史を研究する上で、極めて重要な一次資料である。

長崎大学経済学部は、原爆の被害が比較的少なかったため、長崎高等商業学校時代からの貴重な蔵書が現在も多く継承されている。今後、武藤文庫を含む高商時代の洋書コレクションに対する悉皆調査を行い、さらなる「長崎東衛官許」捺印図書、あるいは他の歴史的蔵書印の発見を目指す。また、本検印の開始時期についても文献調査を重ね、引き続き探求していく予定である。これらの調査結果については、今後改めて報告する。

参考文献

- ・沼田次郎『輸入洋書の検閲と蕃書調所』国民生活史研究 1、吉川弘文館、1957
- ・板沢武雄『日蘭文化交渉史の研究』吉川弘文館、1959
- ・日本見在蘭書目録(日新医学 1956 年から連載)
- ・安江明夫『「蘭書」発見記補遺』参考書誌研究第 79 号、2018
- ・朝倉治彦・石山洋『蕃書調所旧蔵蘭書筭記』上野図書館紀要第 1 冊、1954
- ・片桐一男『阿蘭陀宿長崎屋の史料研究』雄松堂出版、2007

図書館紹介

【琉球大学附属図書館医学部分館】

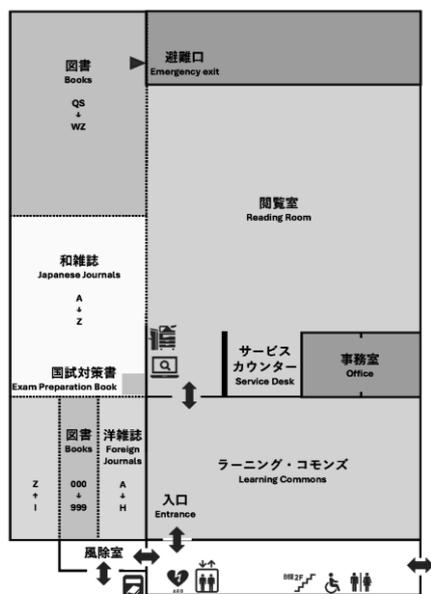
はじめに

琉球大学附属図書館医学部分館（以下「医分館」）は、医学部のキャンパス移転に伴い、令和7(2025)年4月1日に宜野湾市の西普天間キャンパスにて新たに開館しました。新しい医分館は、医学部教育棟の2階にあり、大学病院や他の医学部関連施設と渡り廊下で繋がっています。そのため、旧キャンパスにおいて独立した建物であった以前の医分館と比べて、格段にアクセスしやすい環境となりました。

施設概要

- ・面積：1,540 m²
- ・収容能力：130,000 冊
- ・座席数：189 席

図書館は1フロアで構成されており、出入口手前側にラーニング・コモンズ、カウンターを挟んで奥側に閲覧室があり、閲覧室の隣に書架エリアがあります。

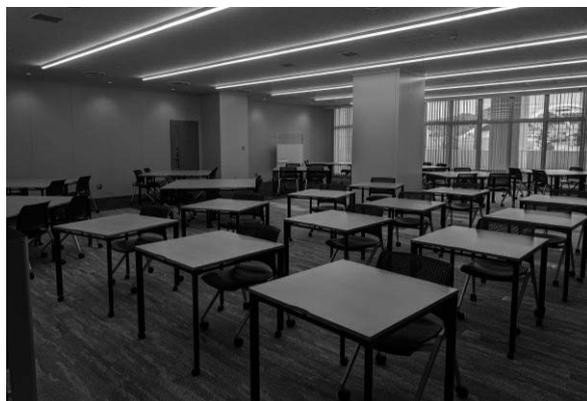


館内案内

【ラーニング・コモンズ】

アクティブラーニングが可能なスペースです。廊下側はガラス張りです。外から館内の様子を見ることが出来ます。

可動式の机・椅子を配置しており、個人やグループでの学修利用のほか、事前予約をすることで、講習会・イベント等での利用も可能です。



【閲覧室】

テーブル席には対面間仕切りがあるほか、カウンター席やソファ席があり、様々な学修スタイルに対応しています。

また、本学学生のPC必携化に伴い、PCを活用した学修に対応できるように、館内全域に複数の無線LANアクセスポイントを配置したほか、ほとんどの座席に電源コンセントを備えています。



【書架エリア】

固定書架と手動集密書架を合わせて、約130,000冊の資料を収容することが可能です。固定書架には図書と和雑誌、集密書架には洋雑誌を排架しています。



また、医学部に関わる医師・看護師・保健師・助産師・臨床検査技師などの国家試験対策本の直近5年分をコーナーとしてまとめて排架しています。



医分館では、移転を機にICタグによる蔵書管理を導入しました。図書を未貸出の状態、カウンター前のBDSゲートを通るとアラームが鳴動し、盗難を防止する仕組みです。



おわりに

新館オープンから7か月が経過した10月末時点で、前年の年間利用者数と比較したところ、約2倍(34,757人→70,428人)来館者が増加しており、老朽化していた移転前より、当館を活用していただける機会が増えたと実感しています。

施設・仕器が新しくなりましたので、今後は利用者サービスの向上や蔵書の充実を図り、より良い図書館を目指してまいります。

【大分大学】

講習会

教職協働で開催しているレポートの書き方に関する講習会を、4月に対面及びオンラインで開催した。資料及び動画を Moodle 等で公開している。



大分大学初のネーミングライツ・パートナー契約

地域の活性化に取り組み、本学施設の魅力向上、相乗効果による産学連携の推進を図ることを目的として、日産プリンス大分販売株式会社と本学初となるネーミングライツ・パートナー契約を締結した。日産プリンス大分販売株式会社 館内哲 社長や本学関係者の出席のもと、図書館1階「プリンス大分ラーニングcommons」にて、オープニングセレモニーを開催した。



ネーミングライツオープニングセレモニー

学生ブックハンティング開催

令和7年11月26日、紀伊國屋書店アミュプラザおおいた店にて、数年ぶりに店頭での学生ブックハンティングを開催した。さらに、年内には第2弾を計画し、年明けには学生による選書とPOPを活用した企画展示も予定している。今回の広報では、大分大学アプリ「プッシュ通知機能」を活用した。



大学開放イベント

11月3日(月)の大学開放イベントに合わせて、且野原図書館では一般・娯楽雑誌の無償配布を実施した。当日は約600名の来館があり、学外の方にも大学図書館の魅力を感じてもらえる機会となった。



一般・娯楽雑誌の無償配布

【鹿児島大学】

「オープンサイエンス研究開発部門」発足

令和7年4月1日、鹿児島大学附属図書館に「オープンサイエンス研究開発部門」を新設した。大学におけるオープンサイエンス推進の中核を担う組織として、高等教育政策や学術情報流通政策、オープンサイエンスを専門とする船守美穂特任教授を部門長に迎え、天野晃特任准教授、寺田将春特任准教授、上村麻里亜特任職員とともに活動を開始。8月より黄秋実特任助教が加わり、5名体制となっている。

同部門は研究者が安心して研究データを管理・共有できる環境整備や、学術成果の公開・発信・利活用の促進に取り組み、学内外への大学の「知」の開放・循環を目指す。また、地域と深く結びつく本学の特色を生かし、地域の社会課題解決に資する「KAGOSHIMA モデル」の構築を計画している。

図書館サポーターキャラクター「さつリス」誕生

“さつまいもっぼいリス” 名前は「さつリス」。このキャラクターは図書館サポーターによってデザインされた。図書館サポーターの活動をはじめ、様々な場面で登場する予定である。



さつリス
Satsuma Library Supporters

企画/展示等

「雨音を聞きながら読みたい！～オススメ本・小説特集～」

中央館では、令和7年6月5日～6月末までの梅雨時期に、雨音を聞きながら読みたいオススメ本・小説特集の展示を行った。



【鹿屋体育大学】

ライブラリーサポーター（リブサポ）の開始

令和7年10月から、本学学生が学びに関する悩みを気軽に相談できるよう“ライブラリーサポーター（リブサポ）”を配置した。

リブサポは本学の大学院生が担い、レポートや論文の書き方、文献の探し方、勉強法などについて、図書館カウンターで相談を受け付けている。

令和7年度は、5名の大学院生がリブサポとして活動しており、月曜日から金曜日の17時30分から20時までの時間帯に、各日1名ずつが担当している。

大学での学修についての悩み事
ライブラリーサポーター
リブサポに相談しませんか？

レポート・卒論の書き方が分からない
図書館の利用方法を知りたい
勉強法が分からない
履修登録の方法が分からない

あなたの悩み事を
鹿屋体育大学の先輩がサポートします！

鹿屋体育大学附属図書館では、学生の皆さんが学びに関する悩みを気軽に相談できるように、“ライブラリーサポーター（リブサポ）”を配置することになりました。リブサポは本学の大学院生で、皆さんの学修をサポートします。図書館カウンターにお気軽にお越しください。（予約不要）

相談受付時間-----
月～金曜日 17：30～20：00
★土日祝、長期休業期間は受け付けていません。
★1人30分程度
★リブサポの予定や専門分野についてはHPで紹介しています。

相談場所-----
鹿屋体育大学附属図書館カウンター

問い合わせ先
鹿屋体育大学附属図書館 図書サービス係
TEL：0994-46-4874
Mail：jyo-sa@nifs.k.ac.jp

鹿屋市立図書館との共同企画

11月11日（火）～11月30日（日）の期間、本学附属図書館と鹿屋市立図書館との共同企画

「鹿屋体育大学の先生のイチオシ本 '20～ '24」を鹿屋市立図書館で開催した。

この企画は、本学教員が推薦する図書を鹿屋市立図書館で紹介展示するもので、一部は、推薦教員の紹介やおすすめコメントとともに展示を行った。

市立図書館との共同企画は今回が初めての試みであり、地域の方々に本学について知ってもらうきっかけとなる、貴重な機会となった。



高校生の職場体験学習

令和7年7月10日（木）、11日（金）の2日間、地元の高校生が職場体験学習のため、図書館の業務体験を行った。配架作業、蔵書点検、図書の整備等、図書館の様々な業務を行った。

体験した高校生からは、「今回の体験で、更に図書館の仕事に興味を持った」「この経験を将来の進路に活かしたい」と感想を得ることができ、図書館の仕事を広める良い機会となった。

【北九州学術研究都市学術情報センター】

スカベンジャーハント

4月23日～5月30日

新入生をメインに図書室の利用方法を楽しく学んでいただくことを目的として、毎年スカベンジャーハントを行っている。

図書の貸出返却や電子書籍の閲覧方法、新聞データベースの検索方法などを盛り込んだ内容となっている。参加者には解答用紙提出後、ノベルティグッズなどが当たるガチャガチャを用意した。



1階に学習室をオープン

5月1日～

図書室には閲覧席しかなかったため、1階の旧CAI教室2部屋の壁を取り払い、30台の机を設置した学習室を開室した。現在は、火、水、木の13:00～20:00まで、中学生以上の方を対象に運用しており、幅広い年齢層の方々にご利用いただいている。



講演会「マンガやアニメで探そう！自由研究のテーマ！！」開催

7月12日

昨年に引き続き、「空想科学読本」の著者、柳田理科雄氏の講演会を開催した。

今年は、夏休み前の開催のため、自由研究に使える話をテーマに、おなじみのマンガやアニメの話題に加え、昔話「桃太郎」を取り上げ、身近な物語の中にも科学の自由研究のテーマが沢山あるというアドバイスをいただいた。そのほかにも氷を使ったミニ実験などがあり、子どもも大人も興味津々な様子だった。



企画・特集コーナー

図書室内には、「本屋大賞」「読者が選ぶビジネス書グランプリ」コーナーや、季節ごとに特集展示を行っている。人気コーナーとなっており貸出中の本も多い。

〈2025年専門図書室 3F 特集コーナー一覧〉

月	特集
1～3月	漫画で読もう
4・5月	新入生へのおすすめ本
6・7月	レポート・研究に役立つ本
8・9月	認知症（認知症月間にちなんで）
10・11月	本屋大賞
12月	ビジネス書

ヒビキノシネマ開催

偶数月に映画の上映会を行っている。

学生に限らず、誰でも参加できるイベントとなっている。常連の方々も多く、毎回60人前後の参加がある。2月は、初の試みとして、過去の上映作品からリクエストを募る「リクエスト上映」を行う。

〈2025 年度ラインナップ〉

- 4月 異動辞令は音楽隊
- 6月 ビッグ・フィッシュ
- 8月 鬼滅の刃 無限列車編
- 10月 お終活 熟春！人生、百年時代の過ごし方
- 12月 ANNIE
- 2月 リクエスト上映

「図書室で推理ゲーム 盗まれた本を探せ！」開催

11月9日

「第21回北九州学術研究都市ひびきの祭」の企画として、「図書室で推理ゲーム 盗まれた本を探せ！」を開催した。当図書室のマスコットキャ



ラクター「がっちゃん」が大切にしている本が怪盗に盗まれ、参加者は、逃げる怪盗を目撃した人々の証言をもとに、追い詰め、本を取り戻すという設定の推理ゲームで、行く先々のクイズを解くことで、図書室のサービスなどを知ることが出来る構成とした。ひびきの祭が家族連れの多いイベントのため、幅広い年齢層が楽しめる問題作りを心掛けた。475名の参加があり、アンケートでは「家族と楽しい時間を過ごせた」「ハラハラドキドキで楽しかった」など好評だった。



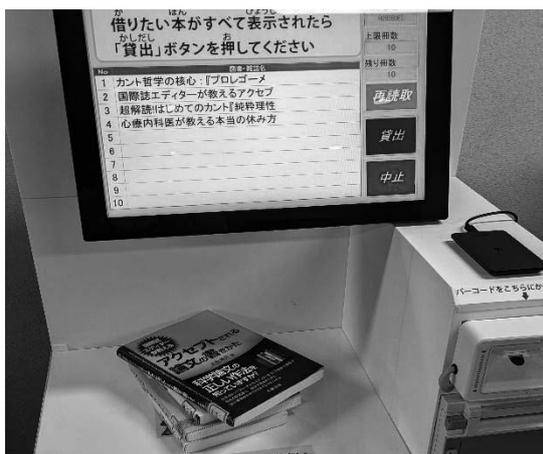
【九州工業大学】

RFIDによる資料管理開始

令和7年10月より、本館・分館両館において従来のバーコード、タトルテープによる資料管理からRFIDによる管理に完全移行しました。それに伴い、入退館ゲート、自動貸出返却機、返却ポストのリプレースを実施しました。これにより、カウンターでの貸出・返却業務や蔵書点検業務が大幅に削減されました。今後は、レファレンスや企画展示、資料のデジタル化や研究データ管理等を充実させるなど、業務のシフトチェンジを行い、図書館におけるDXを加速させる予定です。

(1) 自動貸出返却機

一度に10冊まで貸出・返却が可能となり、数秒で処理が完了します。



(2) 返却ポスト

投函と同時に返却処理が完了します。



学生による教員インタビュー誌の刊行

分館では、主に新入生向けのイベントや情報発信を行う学生スタッフによる、教員インタビュー誌（誌名：LABO Talk）を不定期で刊行しています。本誌は、新入生を含む学部生に向けて、学習方法や進路・研究室選びなどの参考となる情報を届けることを目的としています。インタビューを行う教員の決定から協力の打診、紙面作成など殆どの作業は学生スタッフが行い、職員は学生と教員のやり取りのチェックや誤字脱字などの紙面確認を行う程度です。2022年から発行を続け、2025年10月時点で7人の教員にインタビューを行いました。学生スタッフ側にとっても、教員とじっくり話す良い機会だということで、積極的に取り組んでいます。



仮想書架機能の追加

蔵書検索(OPAC)の検索結果一覧および検索結果詳細画面に、請求記号が前後の本を確認できる仮想書架機能を追加しました。これにより、従来の「点の検索」(特定のキーワードで1冊を探す)から、

「面の検索」(書架全体を眺めるような探索)へ移行し、偶然の発見や関連資料の効率的な閲覧を促進することを目指しています。

なお、これまでも請求記号が前後の図書の書影とタイトルを数冊表示する機能はありましたが、利用者が実際に書架で本を探す体験により近づけるべく、書誌情報から生成した疑似背表紙画像を一行に並べることで一覧性を高めています。機能開発にあたり、スマートフォンでの操作性を意識して調整を行いました。その甲斐あってか、学生を中心に利用者からは好意的な反応を得てい

ます。ただし、請求記号の異なる複本を持つ際に仮想書架上で正しい位置に並べることができないなど、未だ改善点も残っているため、引き続き機能向上を目指していきます。



【九州大学附属図書館】

1. 『金光明最勝王経』国の重要文化財指定記念 展示・講演会開催

2025年9月26日、本学春日政治・和男文庫所蔵の『金光明最勝王経』が、平安時代後期の古訓点を備えた奈良時代の写経として、国語学史や仏教史上において貴重であるとの評価を受け、国の重要文化財に指定された。

このことを記念して、展示・講演会「デジタルで歴史をひらくーこれからの人文情報学ー」を11月1日から14日にかけて開催した。本企画では、『金光明最勝王経』を特別公開したほか、本学人文科学研究院と附属図書館との協働により構築した「前近代日本ーアジア関係資料デジタルアーカイブ」を取り上げ、貴重資料のデジタルデータを活用したデジタルヒューマニティーズ(人文情報学)の手法による歴史への多様なアプローチについて紹介し、関連資料の展示を行った。

11月1日には、本学で開催されたアカデミックフェスティバルの一環として、人文科学研究院の荒木和憲准教授と蛭沼芽衣助教による講演が行われ、学内外の約60名の参加者が興味深く講演に聞き入る姿が見られた。

2. 「前近代日本ーアジア関係資料デジタルアーカイブ」を公開

本学人文科学研究院と附属図書館では、「前近代日本ーアジア関係資料デジタルアーカイブ」(以下「本アーカイブ」)を開発し、2025年7月に公開した。本アーカイブは、本学が所蔵する資料の中から、前近代日本とアジアとの交流、さらには欧米諸国との交流にかかわる資料を抽出し、高度な情報を付与して格納・提供するシステムである。資料の翻刻テキストや現代語訳を画像と対照して表示することができ、各資料に記述された人名や地名、内容年代から多角的に検索することも可能である。翻刻テキストの一部は、市民協働型プロジェクト「みんなで翻刻ー翻刻!九州大学の書物たちー」の成果を基にしている。

翻刻・現代語訳・解説のテキストを国際的な文書構造記述規格であるTEI(Text Encoding Initiative)ガイドラインに準拠した形式で登録・公開できる仕組みが整備されたことで、教育での活用や研究成果の発信がより広がることが期待される。誰でも気軽により多くの資料から歴史にアプローチできるよう、今後、教員・学生の研究成果にもとづくコンテンツを順次追加していく予定である。

「前近代日本—アジア関係資料デジタルアーカイブ」
<https://asia-da.lit.kyushu-u.ac.jp/>



「オープンアクセスに関するアンケート調査」
<https://hdl.handle.net/2324/7357477>



4. 研究データ管理スタートアップ支援の九州地区展開

本学は、国立情報学研究所の委託による「研究データ管理スタートアップ支援事業」に継続して参画している。図書館 DX 支援室とデータ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門（RDS 部門）とが連携し、九州地区の各機関が研究データ管理・利活用体制を自立的に構築できるよう、各種の支援事業を展開している。

特に 2025 年度は、公私立大学にも対象を拡げ、研究データ管理・利活用体制構築に関する課題共有やネットワーク形成を九州地区全体で図っている。具体的な活動としては、九州地区大学図書館協議会（2025 年 9 月 1 日）において、また、九州地区医学図書館協議会（同年 10 月 3 日）において、RDS 部門の教員が研究データ管理の基本に関する講演を行い、その後、参加館全体で意見交換会を実施した。これにより、公私立も含めて九州地区の大学図書館が抱える研究データ管理支援の課題や体制構築に必要な支援の方向性に係る認識を共有することができた。

また、研究支援が多様化し、大学や職種の垣根を越えたネットワーク構築がますます重要になっている現状をふまえ、「九州・沖縄オープンユニバーシティ（KOUU）研究支援人材の資質向上 WG／研究データ管理・利活用 WG 合同ワークショップ」（2025 年 12 月 11 日～12 日）を大分で開催した。研究支援と研究データ管理を担当する職員が一堂に会し、研究データ管理・利活用を軸に、講義や事例紹介、グループ討議を通じて、よりよい支援のあり方について認識を深めることができた。

また、海外の先進的な知識・スキルを習得する機会として、研究データ管理ワークショップ「第

3. オープンアクセス（OA）推進の取組

本学では、各キャンパスからの図書館職員約 20 名で結成した OA サポートチームを中心に、NO OPEN ACCESS, NO SCIENCE のキャッチフレーズのもと、OA 推進に取り組んでいる。

同チームでは、2024 年 12 月から翌 2025 年 1 月にかけて、本学構成員の OA に関する認識とニーズの把握を目的として、アンケート調査を実施した。その結果は図書館ウェブサイトで公開している。国の即時 OA 義務化方針を半数程度の人が知っていたものの、具体的な要件を把握している人は少ないなど、多数の知見を得た。さらに、アンケートに回答いただいた教員の協力により、実状を深掘りするインタビュー調査も進め、各分野における詳細なニーズを把握することができた。

OA に関する意識醸成や即時 OA 義務化の周知にも一層力を入れている。6 月には、本学研究者を対象とした「科研費獲得支援セミナー」（オンライン開催）の中で、15 分程度、即時 OA 義務化に関する説明を図書館から行った。また、即時 OA 義務化に向けては、教員対応の最前線である部局事務部とのスムーズな連携が必須となるため、各部局の研究推進部署を回って説明を行った。そののち、教授会等での説明会へと展開し、機関リポジトリの利用促進も含め、教員への周知を図っている。

1回：リポジトリシステムでのデータ公開」(2025年5月19日)や、国際シンポジウム「研究データ管理支援に関する機関内・外のネットワーク構築」(同年10月17日)も開催した。

5. 写真パネル展「中村哲医師の仕事／The work of Dr. Nakamura」を開催

附属図書館は、2020年に発足した「中村哲先生の志を次世代に継承するプロジェクト」の一環として、中村医師の著述資料の収集・公開、展示スペース運営、授業、情報発信などに取り組んできた。2023年度からは年一回の展示イベントを開催している。

2025年度は、理系図書館(伊都キャンパス)を会場に、2025年7月16日～9月30日を期間として、写真パネル展を開催した。今回の展示は、理・工・農など自然科学系の学生・教職員を中心に学内外の幅広い層に関心を持ってもらう目的で、図書館1～2階(ロビー、書架や通路、階段、吹き抜けのガラス面など)を活用し約170枚の写真パネルと関連資料を配置した。館内を巡る大規模な展示は、観覧者から「中村医師の仕事である水路のようだ」とのコメントもあり好評を得た。

関連企画として、用水路事業の背景・技術的な解説に重点を置く作品を中心に映像上映会を計4回開催した。特に9月の上映会は、直前の新聞掲載の反響で、来場者が90名を超える大盛況となった。

今後も展示等を息長く継続し、九州大学に提供された中村医師の貴重な資料を見ていただく機会を創っていきたい。

「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」

https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/pj_nakamuratetsu

写真パネル展

中村哲医師の仕事

The work of Dr. Nakamura Tetsu



2009年4月「水路」事業本編A編、水路事業、総竣工と開航 / Zoo A of Mizuwadai Canal 5 years after it opened (Apr 2009)

(写真提供)PMS/パンサーグループ

期間 2025年7月16日(水)～9月30日(火)
※休館日:8月13～17、24、31日 9月7、14～15、21、23日



中村哲医師 ドキュメンタリー映像上映会も開催!
7月17日(木)、18日(金)、8月23日(土)、9月27日(土)

上映会や関連企画などの詳細は、図書館ウェブページをご覧ください
▶ <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ai/events/98327>

会場

九州大学附属図書館理系図書館
伊都キャンパス(ウエストゾーン)

問合せ先

理系図書館理系資料サービス係
Tel: 092-802-2450 Email: ttsoservice@jimu.kyushu-u.ac.jp

【主催】九州大学附属図書館、中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト 【協力】パンサーグループ



6. 韓国国立中央図書館(NLK) デジタル化資料が利用可能に

本学は全国でも有数の韓国研究機関として、朝鮮史学研究室や韓国研究センターなどを有している。

2025年2月、本学附属図書館は、韓国国立中央図書館 National Library of Korea (NLK) とパートナーシップ協定を結んだ。これにより、中央図書館の専用端末にて、NLK がデジタル化した資料の閲覧と印刷が可能となった。

NLK 所蔵資料のうち、8,115,030 点の資料と 1,488,062 冊の図書にアクセスでき、日本統治時代の日本語資料も多く含まれる。一般公開されている資料に加え、Partner Library 向けに提供されている資料についても利用可能である。

【熊本学園大学】

「一般職員研修会」で事例発表

日時：2025年9月11日(木) 11:30~12:30

場所：図書館地下AVホール

本学では、年に1度SDの一環として事務職員の研修会が開催されています。この研修会は外部講師の講演や、各部署の取り組み発表、グループワークなどを行うことで、大学事務職員としてのスキルアップを目的としています。今年には図書館が自発的に手を挙げ、発表を行いました。

学生や教員に対しては図書館の利用方法や施設の案内を行いますが、事務職員に対しては細やかなガイダンスを行っておらず、図書館には本がたくさんあるのはわかっているけど、どう利用したらいいのか、意外とわからない部分も多いのではないか、この機会にしっかり認知していただくというのが狙いでもありました。

題して「大学職員としての図書館活用法」

まず、大学設置基準に明記されている大学図書館の位置づけから始まり、図書館は教育研究支援施設として、“大学の要”となり、進化し続けなければならない場所とし、取り組みの例として、ラーニング・コモンズ、SNS、パソコンの自由利用、飲食可のリフレッシュルーム設置などを紹介しました。

熊本学園大学 付属図書館

大学図書館＝教育研究支援施設として、
“大学の要”となる場所
⇒ 進化し続けなければならない

「熊本地震」も乗り越えて!

続いて、図書の受け入れ状況について、蔵書数、年間の資料購入費を具体的な数値で紹介し、さらに利用者数、年間貸出冊数など、経年比較を示し全体的な図書館利用状況を説明しました。



そして、いよいよレファレンス担当者による「業務における図書館活用法」です。ここでは、みなさんに新入生になった気分でも聞いていただきました。OPACの使い方、データベースの紹介と利用方法を、実際にデモンストレーションを行いながら説明し、業務に役立つ具体的な書籍、雑誌の紹介も行いました。

熊本学園大学 付属図書館

検索結果の見方

トップ画面 > 一覧画面 > 詳細(本学所蔵)

くまモンといっしょにフランス語
クマモン・トイッシュ・ニフランスゴ
ミシェル・サガズ(著)
東京：黎明社出版部, 2022.5
Google Booksで目録を表示

巻号情報

No.	学内人数	所在	請求記号	資料ID	状況	備考
1	0	3階館上員付	BS5 SA16	00863545		

44

なかなか図書館に行く時間がない場合でも、図書館の資料を自席で調べることができること、図書館利用に関する個人のポータルサイト“マイラ

イブライリ”やILLの紹介、意外と知られていない図書館の便利な機能の説明など、参考になったのではないかと思います。

熊本学園大学 付属図書館



レファレンスサービスとは

レファレンスサービス(英: reference service)とは、図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。

→「調べもの、探しもの、お手伝いします」



発表は終盤に向かい、今は無き旧図書館の回顧とオマージュでリラックスしていただき、

熊本学園大学 付属図書館



この写真は、一九八七(昭和62)年七月十四日(火)午後二時に、図書館フロアの様子を撮影したものです。

空席が無く、重いカバンをぶらさげて、空席を探し求める学生



最後に、図書館をもっと有効活用して欲しい、そして他部署と連携し学修支援を充実させたい、と結びました。

熊本学園大学 付属図書館

【その他】

- 図書館のデータ(入館、貸出等)
 - ⇒ 教学IRへの活用等
 - 例) 成績と図書館利用の相関関係

他部署と連携した学修支援の充実 イベントの共催

ラーニング・コモンズの活用

今後の図書館のあり方について検討中 → まとめ

- 入試戦略の一つとしての図書館活用



そして、事後アンケートでは、

- ・ 図書館が単なる書籍の貸出機関にとどまらず、学習支援・研究支援・情報発信の拠点として重要な役割を担っていることを理解した。
 - ・ 情報収集の場として積極的に図書館を活用することが必要だと思った。
 - ・ 図書館に行かなくても蔵書検索やデータベースの利用が可能だとわかった。
 - ・ 資格取得や自己研鑽にも積極的に活用していきたい。
 - ・ 電子資料の充実により利便性が向上している一方で、図書館に足を運ぶことで得られる情報や紙媒体の価値を再認識することができた。
 - ・ 図書館のサービスを積極的に利用し、職員としての専門性を高めていきたい。
- といった、多くの感想が寄せられました。

このような感想を読んで、みなさんに図書館を理解していただくという研修目的ではありましたが、業務への意識向上と様々な課題を認識させられた、実はわたしたちの学びになったのではないかと思います。そういった意味でも、この試みは有意義であったのではないのでしょうか。

もし、みなさんの大学でも、このような一般職員研修がありましたら、ぜひ図書館の紹介を試みてはいかがでしょうか。



「オープンライブラリー」を開催しました

熊本学園大学付属図書館は、旧図書館が1963年に建てられ、その後32年を経て1995年に現在の図書館が開館しました。今年で「開館30周年」を迎えたのです。

そこで、30周年を記念したイベント「オープンライブラリー」を開催しました。キャッチフレーズは「ご家族で大学図書館へ遊びにきませんか？」。この日は、小さいお子様も入館OK。地域のみなさんに愛される大学図書館を目指そうが、開催の目的です。

日時：2025年11月1日（土） 10:00～15:00

場所：熊本学園大学付属図書館

「ご家族で大学図書館へ遊びに来ませんか？」

熊本学園大学付属図書館
オープンライブラリー

イベント目玉企画

- 映画上映会
館内ラウンジフロアにて『ムーミン谷の彗星』を上映し、上映時間：①10:00～②11:30～
- テーマ展示
『図書館と戦争・戦後・平和』『熊本学園大学付属図書館の歩み』『大洋デパートの火災関連資料』
- ひのとーく
開演時間：13:30～
お楽しみ：お菓子作り
本についてのお話しや疑問の解消、遊び入り参加・親子参加歓迎！
- フォトスポット
ひのたと彗星が輝く特別写真スポットです！館内に掲げたひのたとを撮影して撮影するとプレゼントも！！

お土産もあります！

開催日時
2025 11/1 土
10:00～15:00

当日は特別に！
小さいお子さまも入館いただけます
ぜひご家族でご来場ください！
※小学生以下は保護者同伴をお願いします。

熊本学園大学付属図書館
〒862-0971 熊本県中央区大江2-5-1
問い合わせ先：096-371-8047
※駐車場はありませんので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

大学では学費が「払戻金」も発生中！

詳細はこちら

当日のイベントをご紹介します。

【映画上映会】

『ムーミン谷の彗星（すいせい）』

『劇場版・鬼滅の刃 無限列車編』

『かがみの孤城』

【テーマ展示】

『図書館資料で見る戦後80年』

テーマ展示

図書館資料で見る戦後80年

今年、第二次世界大戦が終わって80年を迎えました。この戦争が歴史の教科書に載っているだけの遠い世界の出来事にならないためにも、振り返ることは大事だと思います。

本学図書館が所蔵している「戦争」に関する資料の一部を、5つのテーマに沿って展示しています。

1階から3階までテーマごとにエリアが分かれていますので、最後まで見ていただければ幸いです。



『大洋デパート火災関連資料展示』

104名の死者を出した1973年の大洋デパート火災のご遺族が、デパート側を相手に取って起こした民事裁判の記録が、昨年12月に本学へ寄贈されました。この貴重な資料を図書館が所蔵する大洋デパート火災関連資料と併せて展示しました。

『クマガク図書館今昔物語』

30年をざっくり振り返るコーナーです。

- ・熊本地震



- ・今は無きカード目録



- ・館報創刊号から最新号まで



【ひのとーく】

学生コンシェルジュ企画。

押し本について語り合うコーナー。小さな男の子が参戦してくれました。



【フォトスポット】

図書館キャラクター「ひのと」と写真を撮ることができる特別なスポットを設置。紙の花は全部で約450個、スタッフが頑張って内職しました。

館内に隠れた「ひのと」を探して撮影するとプレゼントがもらえる企画も行いました。



■展示「どくしゃはほんをみつけた！～この館で30年間借りられなかった本～」

現在の図書館になってからまだ一度も借りられていない、隠れたお宝本を展示しました。



■「気軽に雑誌」「問題集」大放し

「気軽に雑誌」コーナーのバックナンバー・過去の問題集などを自由に持って行ってもらいました。



当日は、本学の学園祭も行われていて、模擬店のおいしい匂いに負けてはならぬと、学生アルバイトがチラシ配布に奮闘してくれました。

結果「大盛況」とまではいかなかったのですが、大学図書館では聞くことができない小さなお子様のはしゃぐ声が響き、開館当時を支えてくれたスタッフの生存確認、いえ、劇的再会も果たし、多少の自己満足感も否めなかったとはいえ、一応の成果は得られたのではないのでしょうか。

アンケートの結果をみてもおおむね好評で、施設の充実、スタッフの対応など高評価をいただき、嬉しい限りです。次に機会があれば、もっと宣伝を工夫し、さらに多くの方に喜んでいただけるような企画を練っていこうと思いました。

【熊本大学】

第 17 回熊本大学東光原文学賞・受賞作発表

(1 月)

平成 20 年に創設した「熊本大学東光原文学賞」は今年で第 17 回の開催となった。今回の文学賞には合計 20 作品の応募があり、1 月 17 日開催の表彰式において応募された作品の中から学長賞 1 篇、附属図書館長賞 3 篇を発表した。

学長賞は「画家ホールウォードは生きている」、附属図書館長賞は、「一枚目のキャンパスの魔法」、「くたばれ、マイヒーロー」、「食べる」。受賞作品は、令和 7 年 3 月に刊行した『第 17 回熊本大学東光原文学賞作品集』（冊子）で読むことができ、過去の受賞作はすべて図書館ホームページで公開している。

(https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/tokogen_award)

IIIF 対応デジタルアーカイブの公開、運用開始 (4 月)

令和 5 年 10 月 25 日より令和 6 年 1 月 22 日にかけて実施したクラウドファンディング「記録は宝 熊本大学『松井家文書』宮本武蔵の記述と新たな発見を未来へ」による支援金で、国際基準 IIIF に準拠した新デジタルアーカイブシステムを構築し、令和 7 年 4 月に一般公開した。

同システムには、熊本大学所蔵の松井家文書 25 点が解説付きで収録されており、デジタルデータの閲覧・印刷・ダウンロードを自由に行える。

今後は、松井家文書のデジタルデータ登録をすすめ、コンテンツを充実させる計画である。

「菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展」を開催 (6 月)

熊本大学附属図書館医学系分館では、1 階ラーニングcommonsにおいて、6 月 12 日～6 月 18 日にかけて国立療養所菊池恵楓園の絵画クラブ金陽会の作品展を開催した。開催は昨年度に引き続き 2 度目で、今回の展示では、ハンセン病で隔離差別された方たちが独学で描いた作品 24 点を展示

した。展示によって、医学部学生のみならず、さまざまな方に絵画との対話を通じてハンセン病について心で学ぶ機会をと、絵画クラブ金陽会のキュレーターとの共同で企画した。

開催期間中は、学内外から多数の観覧者があり、広く鑑賞の機会を提供した。



(菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展の様子)

新たなネーミングライツ事業契約を締結 (10 月)

熊本大学では、令和 7 年 9 月に西部ガス熊本株式会社とネーミングライツ事業契約を締結し、令和 7 年 10 月 1 日からひご未来図書館（令和 6 年 4 月より株式会社肥後銀行とネーミングライツ締結済み）のグループ学修室 1 において、「カーボンニュートラル学修室」の愛称が設定された。期間は令和 10 年 9 月 31 日まで。

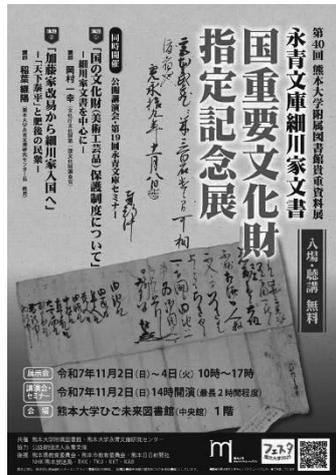


(グループ学修室 1 カーボンニュートラル学修室)

第 40 回熊本大学附属図書館貴重資料展「永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展」を開催
(11/2～11/4)

令和7年9月26日に、熊本大学が公益財団法人永青文庫から寄託を受けている「細川家文書」のうち9,346点が国の重要文化財として指定された。

今回の貴重資料展は重要文化財に指定された細川家文書にスポットをあて、展示資料35点のうち、重要文化



財から32点を展示・公開した。期間中には、文化庁文化財第一課文化財調査官 岡村一幸氏および永青文庫研究センター長 稲葉継陽教授による公開講演会 / 第19回永青文庫セミナーも開催した。

三日間限定の貴重資料展は、卒業生・一般市民を含む532名が訪れ盛況であった。



(貴重資料展の様子)

【佐賀大学】

1. こども見学デー「みんなでつくる！オノマトペ図鑑」開催

令和7年7月25日、佐賀大学附属図書館で「みんなでつくる！オノマトペ図鑑」ワークショップを開催した。教育学部中里理子教授によるオノマトペの講義後、子どもたちが考えたオノマトペについて、1枚の画用紙に絵や言葉で表現し、成果を『オノマトペ図鑑2025』として製本した。図書館見学も実施し、参加者から「音を頭の中で想像しながら絵をかくのが楽しかった」「墨をプシューと吐くタコの絵がお気に入り」と好評だった。



2. 防災研修「大学図書館と防災と私」開催

令和7年9月16日、佐賀大学附属図書館で令和7年度国立大学図書館協会地区協会助成事業「大学図書館と防災と私～my図書館DIGを实践する夏」を開催した。

研修では、減災ラボ代表理事・鈴木光氏による講演と、図上訓練(DIG)を実施。参加者は自館の平面図を用いて危険箇所や安全箇所を確認し、災害時の初動行動や二次災害防止策を検討した。本研修を通じ、図書館職員が防災を「自分事」として捉え、今後の改善に向けた意識を高める機会となった。



3. 学生選書ツアー開催

令和7年9月4日に学生選書ツアーを開催した。13名の学生が参加し、大型書店に赴いて選書を実施し、各学生の専攻分野の学術書や小説など多様な図書約200冊が選書された。参加した学生からは「選書していたらあっという間に時間がたってしまった」「次回も参加したいと思う」などの声が聞かれ、終始和やかなイベントとなった。選書した図書は学生選書コーナーに展示しており、よく利用されている。



4. 図書館月間 2025

読書週間にあわせ毎年10月末から11月末の期間を「図書館月間」として、各種イベントを開催している。今年は、附属図書館本館エントランスホールにて「佐賀の防災～今と昔」をテーマに当館で所蔵している貴重書コレクションから数点を展示した。

11月13日には地域学歴史文化研究センター伊藤昭弘教授による貴重書展示解説および理工学部



大串浩一郎教授による展示パネル解説が行われ、参加者からは「記録の保存状態や正確性」に関する質問や「市内で浸水被害にあった場合の心構え」、「普段の備え」についての質問やコメントが数多く寄せられた。

また、今年度は学生による図書館利用促進イベント「初心者歓迎！ボードゲーム会」や「百人一首体験会」を開催した。参加した学生や教職員、市民の方からは「いろいろな世代で交流できて想像以上に楽しかった」や「本を使ってボードゲームという視点がおもしろい」、「定期的で開催してほしい」との反応があった。



5. 常設貴重資料企画展開催

所蔵の貴重書「小城鍋島文庫」や「市場直次郎コレクション」から、約3か月ごとにテーマを選び、本館貴重書展示エリアで展示している。今年は次のテーマで企画展示を行った。

- ・黄檗宗と佐賀
- ・佐賀の防災～今と昔
- ・百人一首の世界

6. 中学生の職場体験学習受入れ

附属中学校の生徒が2日間の職場体験学習のため来館し、図書館業務を行った。カウンター業務をはじめ、普段は目にしない壊れてしまった本の修復業務などの裏方の業務にも取り組んだ。大学図書館の業務の多様さや作業の大変さを実感でき、また仕事への取り組み方、進め方等について学べ、貴重な経験となったとの感想が寄せられた。



【長崎大学】

論文掲載料支援制度開始

電子ジャーナル転換契約を締結した2社から出版する論文について、著者負担金を拠出することでオープンアクセス化が可能となる論文掲載料支援制度を1月から開始した。

経済学部創立120周年記念展

経済学部が創立120周年を迎えることを記念し、経済学部分館において「創立壱百貳拾周年記念展」を開催した。長崎高等商業学校設立前の写真や、建物がまばらな創立時の校内図、広田弘毅元首相来学時の写真や明治期の図書原簿、第一回卒業アルバムなど、貴重な資料を多数展示した。4月1日

から12月24日までの会期中に一般市民を含む多くの見学者が訪れた。

特別展示『GHQ 焚書と原爆の記憶』

終戦80年、被爆80年の節目の年にあたり特別展示を7月1日から9月2日まで開催した。経済学部分館に残るGHQの「宣伝用刊行物の没収」に関する行政文書の原本を通じて、当時の出版物政策の実態に迫った。また、原爆被害が比較的少なかったとされる片淵キャンパスにおいて、当時の長崎高等商業学校関係者による被爆証言資料を基に、実際の状況を伝えるパネル展示を行った。



クラウドファンディングプロジェクト「被爆 80 年、被爆の記憶を未来へ。長崎大学の貴重な歴史資料を守りたい」への参画

長崎大学では、被爆の歴史を伝える「キュンストレーキ（紙製人体解剖模型）」「血染めの白衣」「旧長崎医科大学被爆門柱」の三つの資料の修復、保存、展示、説明板等の整備のクラウドファンディングを実施した。このうちキュンストレーキは医学分館所蔵であり、プロジェクトの実施委員会に参画し広報活動を行った。寄付受付終了後、修復

【福岡教育大学】

企画展示『高橋睦郎氏の文学世界：文化勲章受章を祝賀して』の開催

本学（福岡学芸大学時代）の卒業生である詩人・随筆家の高橋睦郎氏の 2024 年度文化勲章を受章を祝し、氏の文学世界を紹介する企画展示を 1 月 24 日から 3 月 31 日までの約 2 か月間開催した。

展示では、氏の代表的な詩集や評論、翻訳作品を中心に、古典から現代に至る幅広い文学的営為を示す資料を取り揃えるとともに、関連する研究書や雑誌記事も併せて紹介し、来館者が氏の文学的背景や思想の広がりをも角的に理解できる内容とした。展示物の作成にあたっては、本学教員で日本近代文学を専門とする久保田裕子氏の協力を得て、展示構成や解説の充実を図った。

期間中は延べ約 450 名が展示を鑑賞し、学生・教職員のみならず地域利用者からも広く参加があ



り、来館者からは「詩の言葉の奥行きを改めて感じた」「文化勲章受章の意義を身近に実感できた」といった声が寄せられ、氏の受章を共に喜び、文学の魅力を再確認する場となった。今回の展示を通じ、

保存作業が開始され、業者との打ち合わせやスケジュール策定に携わっている。

図書館システムリプレイス

10 月に図書館システムのリプレイスを行い、クラウドサービスのシステムとなった。また蔵書検索システムはトップページに新着図書や開館カレンダーを表示し、スマートフォンでも使いやすいデザインとなった。

文化の継承と創造に尽くされた氏の功績を広く共有するとともに、大学図書館の社会的役割を改めて示す機会となった。

教科書展示『日本の教育と教科書の旅路：江戸から現在へ』の開催

7 月 14 日から 7 月 25 日までの約 2 週間、日本の教育史を身近に感じる機会として、「教科書」展示を実施した。

展示では、寺子屋で使われた往来物から始まり、明治期・大正期・終戦直後・昭和後期を経て、現在の教科書に至るまでの資料を、手に取れる形で紹介した。期間中は景品付きの「教科書の歴史クイズ」を合わせて実施し、参加者が楽しみながら学べる工夫を加えた。期中にオープンキャンパスの実施が重なったこともあり、高校生やその保護者の参加もあり、自身と親世代の教科書を比較す

る姿や、通常は手にすることのない資料に興味深げに閲覧する姿が見られた。



【福岡県立大学】

「附属図書館におけるラーニング・ commons の整備と運用について」

本学では、学生の主体的な学修を支援する環境の充実を図るため、附属図書館分館において先行的にラーニング・ commons を整備し、その運用を進めてきた。

その成果を踏まえ、2024年4月より本学中期計画に基づく「学修ラウンジおよび ICT 環境の整備」に取り組み、本館にも同様の学修支援環境を整備することを決定した。

図書館運営部会のワーキング・グループを中心に具体的な検討を進めた結果、本館1階にラーニング・ commons を設置することとし、整備作業を経て2025年4月より運用を開始した。本稿では、その整備プロセスと運用の概要について報告する。

1. 検討の経緯

2024年10月、図書館運営部会の協議を経て、本館1階の未利用スペースをラーニング・ commons として活用することを正式に決定した。

当該スペースは当初、物置として使用されており、不要物の整理や備品の処理手続きを段階的に進めながら、限られた予算の中で利用環境の整備を行った。

2. 物理的環境の改修

本館ラーニング・ commons (以下、LC) 整備にあたっては、利用者の学修環境の快適性およびプライバシー確保の両面を考慮した。

(1) 窓面の視認性・遮熱対策

当該スペースは外部に面した大きなガラス窓を有しており、ブラインドは設置されていたものの、周囲に自転車置場や一般道路があるため、内部が外部から見えやすい状況だった。

そこで、外から内部が見えにくく、かつ採光を妨げないように、ガラス面の下部（おおむね人の身長程度の高さまで）にミラーフィルムを貼付した。

あわせて、夏季の高温対策として、ガラス用の遮熱ペイントを一部窓面に塗布し、室内温度の上昇抑制を図った。



図1 窓ガラスのミラーフィルム

(2) 入口ドアの改修

元の入口ドアは金属製で内部の様子が見えず、閉鎖的な印象を与えていた。

学内職員による改修作業により、経費を抑えつつも、アクリル板の小窓を設置し、内部の明るさと開放感を高めた。利用者からは「入りやすくなった」「明るい印象になった」といった肯定的意見が寄せられている。



図2 入口ドア改修（アクリル小窓設置）

(3) 表札の設置

「本館ラーニング・ commons」の表札は、学内の資源を活用し、職員が手作業で作成した。

廃棄予定の表札を再利用し、書体の試作・検討を経て完成させたものである。塗装用ニスや取付金具などの部材は市販品を使用し、経費を抑えることができた。



図3 表札

3. 学修環境の整備

本館ラーニング・コモンズでは、多様な学修形態に対応できるよう、可動什器（豆型テーブル・椅子）を導入した。これらの什器は、個人利用から少人数のグループワーク、ゼミ単位でのディスカッションまで、利用目的に応じた自由なレイアウト変更を可能とするものである。

また、既存の学内ネットワーク環境により、無線LANを利用した端末作業にも対応している。利用者は自身の端末を用いてオンライン資料の閲覧やレポート作成を行うことができる。

4. 運用開始（2025年4月1日）

2025年4月1日に「本館ラーニング・コモンズ」を正式にオープンした。

開設にあたっては、図書館ホームページへの掲載および出入口での掲示を行い、4月9日（水）から11日（金）までの3日間は自由開放期間として、学生や教員が自由に利用できるようにした。

その後、教員によるゼミ利用などの予約も多数寄せられ、順調な滑り出しとなった。

表1に、本館および分館ラーニング・コモンズの予約状況を示す。

表1. 本館・分館ラーニング・コモンズ予約状況

	4月	5月	6月	7月
本館	80	125	152	95
分館	34	118	72	109

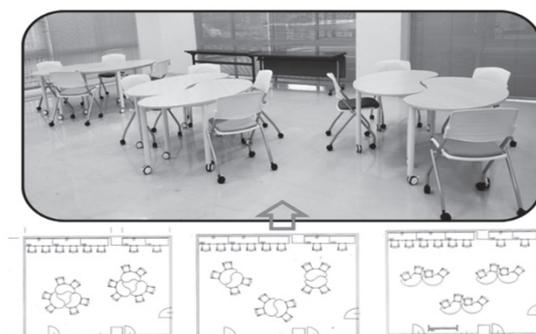


図4 可動什器（豆型テーブル・椅子）

5. 利用促進に向けた取組

ラーニング・コモンズの運用開始後、図書館運営部会ワーキング・グループでは、利用促進に向けた取組を進めている。

2025年度には、学生の基礎的な学修スキルの向上を目的として、「ミニ講義（仮称）」の企画・実施を計画している。内容は、Word・Excelの活用やレポート作成法、研究倫理、生成AIの適切な利用など、学生のニーズに応じたテーマを想定している。

これらの取組を通じて、ラーニング・コモンズを学生が主体的かつ協働的に学ぶ場として一層活性化させていくことを目指している。

6. まとめと今後の展望

附属図書館本館1階の未利用スペースを活用したラーニング・コモンズの整備は、分館での先行事例を参考としつつ、学内の協力体制のもとで進められたものである。

空間改修から什器導入、表札制作に至るまで、経費を抑えながら、限られた予算の中で学修環境の整備を着実に進めた。

今後は、ミニ講義の継続的運営を通じて学生の情報リテラシーやレポート作成能力の向上を支援するとともに、分館との機能連携やICT環境の拡充を図り、学修支援環境のさらなる充実を図っていきたい。

【宮崎大学】

オープンアクセス加速化事業

本学及び連携する3大学（東邦大学、南九州大学、九州医療科学大学）は、文部科学省の令和5年度補正予算「オープンアクセス加速化事業」の採択を受けた。

・リポジトリ登録支援システム

「機関リポジトリアシスト機能」(リポジトリ登録支援システム)を開発した。論文情報の収集、著作権ポリシーの確認、著者へのメール送信と本文ファイルの提供・受取、JAIRO Cloud への登録等の各作業を自動化・省力化することで、リポジトリ登録作業をサポートすることができる。

・研究データ管理・公開

「UoM ストレージ」(研究データ保存ストレージ)を導入した。UoM ストレージはGakuNin RDM の拡張ストレージとして利用可能である。GakuNin RDM のNII ストレージのみでは研究データ保存のための容量が不足する研究者に提供する。

また、研究データ公開サーバを導入した。JAIRO Cloud の保存領域を圧迫しないようにするため、ファイルサイズが大きい研究データを公開する場合は研究データ公開サーバにファイルを保存して公開し、そのURLをJAIRO Cloud に登録する。

・APC 支援

補助金による戦略的な APC 支援を実施し、3月末までに57件の論文をOA出版した。

・県内大学との連携

2025年3月10日に宮崎大学で「オープンアクセス加速化事業成果報告会」を開催した。また連携機関等とミーティングを行い、今後のOA推進にあたっての問題点等を共有した。さらに、6月

10日に宮崎県内のOA関連フォローアップセミナーを開催した。県内連携機関等が参加し、機関リポジトリアシスト機能やOA推進の課題について情報共有をおこなった。

本館ライブラリーカフェ早朝開館

2025年7月24日～8月6日に、本館ライブラリーカフェの早朝開館を実施した。試験期間中に、学生・教職員が図書館の一部であるライブラリーカフェを朝7:00から利用できるようにした。これまで図書館を利用できなかった早朝の時間帯に自習等ができるようになり、多い日で約20名の学生が利用した。

「宮崎の鉄道 —鉄道敷設の歴史—」展

1月7日～2月6日に、附属図書館本館1階ホールにて、宮崎県立図書館巡回展「宮崎の鉄道 —鉄道敷設の歴史—」を開催した。宮崎県立図書館のご協力により、宮崎の鉄道の歴史に関するパネルのほか、関連する図書を展示した。



「宮崎の鉄道 —鉄道敷設の歴史—」展

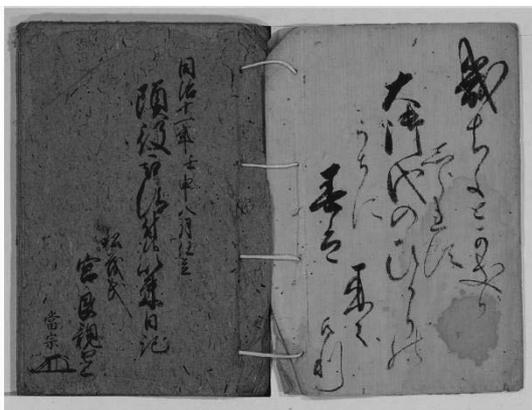
【琉球大学】

琉球大学附属図書館所蔵「宮良殿内文庫」(宮良殿内家関係資料)が国の重要文化財に指定

当館が所蔵する「宮良殿内文庫(みやらどうんちぶんこ)」(宮良殿内家関係資料)348点が、令和7(2025)年9月26日に国の重要文化財に正式に指定されました。

「宮良殿内文庫」は、近世の八重山地域において代々頭役(かしらやく:行政区の長)を務めた宮良家に伝わる貴重な資料群です。「宮良殿内(みやらどうんち/めーらどうぬじう)」とは宮良家の屋敷を意味し、転じて宮良家への尊称でもあります。

本資料群には、八重山の行政に関する文書や首里王府との往復文書のほか、儒教関係の漢籍資料や琉歌集・和歌集などの教養に関する資料も含まれています。これらの資料からは、八重山の歴史や当時の行政の様子、また八重山士族の生活や文化の実態をうかがうことができます。



宮良殿内文庫資料例(頭役被仰付候以来日記)

昭和37(1962)年に、当時の当主・宮良當智(みやら・とうち)氏の「広く研究に役立ててもらいたい」というご意向により、当館へ寄贈されました。その後、平成9(1997)年には当館の所蔵資料として初めてデジタル公開を実施し、現在稼働中の「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」にて、一部資料のデジタル画像を解説や翻刻文とともに公開しています。

本資料群は、地域史研究の基礎資料として高く評価されてきました。今回の指定により、資料の歴史的、文化的価値があらためて認められるとともに、八重山をはじめとする琉球沖縄の歴史・文化研究の発展に寄与することが期待されます。

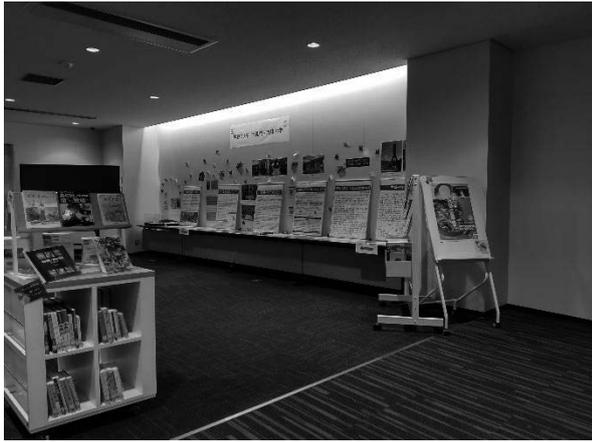
当館では、今回の指定を機に、あらためて地域の皆さまをはじめ多くの方々に、本資料群の魅力・価値を伝えていけるよう、デジタルとリアルの両面から資料の保存・公開・活用に一層励んでいく所存です。

企画展「戦後80年 沖縄戦×琉球大学」を沖縄県内各地で開催

令和7(2025)年は、アジア太平洋戦争末期の沖縄戦から80年という節目の年です。当館ではそれに合わせ、企画展「戦後80年 沖縄戦×琉球大学」を沖縄県内各地で開催しました。本展では、本学の教員と連携し、本学で行われている沖縄戦をめぐるさまざまな研究・教育活動や、当館職員が作成した本学戦跡MAP、当館所蔵の沖縄戦関連資料等を紹介しました。

本展は、まず6月2日から6月30日まで、当館を会場に開催し、7月以降は、本学附属中学校、南城市、中城村、恩納村で移動展を行いました。そのほか、当館が毎年地域貢献の一環として学外で開催している企画展にも出展しました。令和7(2025)年は、豊見城市教育委員会との共催により、10月1日から10月26日の期間に開催し、本学所蔵の豊見城市に関する資料とともに展示を行いました。

来場者からは「亡くなってしまった人への思いや、次の世代につないでいきたいと思う意思が感じられた」「今後は聞くだけの平和学習ではなく、自分で調べてそれを沖縄戦を知らない人に知ってもらうということまでできるようにしたい」といった声が寄せられ、本展が「沖縄戦の記憶継承のこれから」について考える機会となったことがうかがえます。



当館会場の様子

第19回琉球大学びぶりお文学賞を実施

「琉球大学びぶりお文学賞」は、琉球大学が基本的な目標として掲げる「地域及び国際社会に貢献する人材」、「豊かな教養と自己実現力を有する人材」育成の一環として、学生の言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力を育むとともに、文学活動の活性化を促進し、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的に平成19(2007)年度に設けられた文学賞です。対象は、沖縄県内に在籍する大学・高等専門学校（本科4年次以上）・大学院に在学する学生で、小説と詩の2部門に分かれており、作品の分野は限定していません。

第19回目となる令和7(2025)年度は、より多くの学生に本文学賞を周知することを目的に、関連イベントを実施しました。まず、7月1日～10月9日までの間、企画展「書き出すための第一歩

のお手伝い!」展を館内で開催し、小説や詩を書くための参考図書の紹介や、これまでの受賞者・元選考委員から、応募者へのメッセージの掲載、過去の作品集の紹介を行いました。さらに、詩や小説の執筆に関心がある学生を対象とした創作講座を実施し、小説部門は8月8日に野原誠喜氏（小説家・詩人：第46回山之口獏賞受賞）を講師に、詩部門は8月10日に常盤坂もず氏（詩人・歌人：第10回琉球大学びぶりお文学賞、第46回琉球歌壇賞受賞）を講師に迎え開催しました。

募集は10月22日に締め切られ、小説部門14編、詩部門34編の応募があり、選考結果は12月に公表されました。

本文学賞の入賞作品は、例年作品集として冊子体で発行すると同時に琉球大学学術リポジトリにて公開しています。また、令和8(2026)年の2月下旬に附属図書館にて表彰式を挙げる予定です。



館内企画展の展示

図書館活動報告

福岡県・佐賀県大学図書館協議会

【令和7年度総会（書面会議）】

日時：令和7年5月30日（金）～6月13日
（金）

当番館：近畿大学産業理工学部図書館

投票会員：36館

協議事項

- (1) 令和6年度決算報告および監査報告
- (2) 令和7年度予算（案）
- (3) 次期理事館および監事館の選出
- (4) 福岡県図書館協会理事の選出

地区研究会報告

- (1) 北部地区
九州工業大学図書館
- (2) 福岡地区

福岡女学院大学図書館

九州情報大学図書館

福岡教育大学学術情報センター図書館

(3) 南部地区

有明工業高等専門学校

久留米工業大学学術情報センター図書館

承合事項

- (1) 即時オープンアクセスへの対応状況について
- (2) 指定図書、シラバス図書の運用方針・ルールについて
- (3) 授業・研究と連携した蔵書構築について

その他報告事項

- (1) 退会届について

福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

【北部地区研究会】（書面回議）

日時：令和7年11月5日（水）～11月17日
（月）

会場：書面（メール）回議で開催

当番館：北九州工業高等専門学校図書館

出席者：14館

九州工業大学附属図書館、北九州市立大学図書館、九州歯科大学附属図書館、近畿大学産業理工学部図書館、九州共立大学附属図書館、九州国際大学図書館、九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館、産業医科大学図書館、西日本工業大学図書館、福岡県立大学附属図書館、折尾愛真短期大学図書館、西南女学院大学図書館、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館、北九州

工業高等専門学校図書館（当番館）

議事

審議事項

- (1) 令和6年度決算報告及び監査報告について
原案（資料1）のとおり承認された。
- (2) 令和7年度予算案について
原案（資料2）のとおり承認された。
- (3) 令和9年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会当番館の選出について
原案（資料3）のとおり、北九州市立大学が選出された。

承合事項

- (1) 導入済みの電子書籍プラットフォーム名と導入後に寄せられた意見につ

- いて
- (2) 科研費等の競争的研究費制度における学術論文等の即時オープンアクセスへの対応状況について
 - (3) APC (Article Processing Charge) の大学負担状況について
 - (4) 転換契約のデメリットについて
 - (5) Windows10 のサポート終了が、2025年10月14日という状況下、貴図書館の来館者用PC利用状況、今後のご対応について
- 承合事項 (1) ~ (5) について、資料4のとおり各館の回答が報告された。

確認事項

- (1) 福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会 加盟館利用案内につい

- て
- 資料5のとおり、加盟館の利用案内について確認された。
 - (2) 令和8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会当番館確認について
令和8年度当番館は、九州国際大学とすることが確認された。
 - (3) 令和8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会理事館確認について
令和8年度は、南部地区担当のため北部地区にはあたらない。北部地区は、令和9年度担当予定であることが確認された。

以 上

2025(令和7)年 福岡県・佐賀県大学図書館協議会
福岡地区研究会 記録

日 時：2025(令和7)年11月14日(金)

13：30～16：30

会 場：福岡大学中央図書館1階多目的ホール

出席者：10館23名

当番館：福岡大学図書館

福岡女子短期大学図書館

第一薬科大学図書館

テーマ：「共創の時代と未来型図書館」

1. 講演

演 題：「AI エージェントと共進化する大学図書館」

講演者：第一薬科大学先端医療データ研究センター教授 有馬 英俊 氏

2. グループワーク (承合事項について)

グループ発表 (4つのグループに分かれ、意見交換・全体での共有)

3. 承合事項

- 1. 図書館アンケートの設問について(提案大学：福岡女学院大学)
- 2. 学術雑誌 (電子ジャーナル含む) 購入状況について (提案大学：九州産業大学)
／資料購入状況、上層部や他部署への働きかけについて (提案大学：福岡女子短期大学)
- 3. ほぼ経費ゼロでできる広報活動とサービスについて (提案大学：第一薬科大学)
- 4. 海外からの文献複写物取寄せ、現物貸借について／急病人発生時及び盗難発生時の初期対応について (提案大学：福岡大学)

4. その他

2026 (令和8) 年度福岡地区研究会当番大学の紹介

※閉会后、福岡大学図書館見学

福岡県・佐賀県大学図書館協議会
南部地区研究会記録

【令和6年度 第2回研究会】

日時：令和7年2月20日（木）
会場：久留米工業大学 学術情報センター情報館
（Zoom開催）
出席者：10館15名
当番館：久留米工業大学学術情報センター 情報館
議事：

1. 研究テーマ

「オープンアクセス、オープンサイエンス等への
取組みについて」

（提出館：佐賀大学附属図書館）

2. 協議事項

・令和7年度研究テーマについて
提出テーマ：「オープンアクセス、オープンサイエンス等への取組みについて」

（提出館：有明工業高等専門学校図書館）

3. 承合事項

1) 除籍本の取り扱いについて

（提出館：有明工業高等専門学校）

2) 図書館業務従事者及び委託業務について

（提出館：久留米工業大学）

4. 講演

演題：「航空と図書」

講師：久留米工業大学

副学長 学術情報センター長

麻生 茂 氏

5. 令和6年度南部地区研究会のまとめについて

6. 総会

1) 令和6年度決算について

2) 令和7年度予算（案）について

3) 令和7年度幹事館及び当番館（案）の選出
について

4) 令和7年度福岡県・佐賀県大学図書館協議
会理事館・監事館について

【令和7年度 第1回研究会】

日時：令和7年9月4日（木）
会場：九州大谷短期大学 本館1階
学習支援室
出席者：10館13名
議事：

1. 研究テーマ

「オープンアクセス、オープンサイエンス等
への取組みについて」

（提出館：佐賀大学附属図書館）

2. 協議事項

なし

3. 承合事項

1) 漫画の選書基準について

（提出館：九州大谷短期大学図書館）

2) 除籍規定について

（提出館：九州大谷短期大学図書館）

3) 学生有志による図書委員またはそれに類す
る系の図書館活動の実施について

（提出館：九州大谷短期大学図書館）

その他：

次回当番館確認等

4. 講演

演題：「福祉的視点を考える～図書館利用者の
多様性～」

講師：九州大谷短期大学 仏教学科

准教授 中島 航 氏

佐賀県大学図書館協議会

令和7年度佐賀県大学図書館協議会総会

日 時：令和7年8月26日（火）

場 所：佐賀大学附属図書館（本庄キャンパス）

出席者：4館10名

議 題：

1. 協議事項

- (1) 令和6年度決算報告について
- (2) 令和7年度予算（案）について
- (3) 令和8年度幹事館および監査館の選出について

2. 報告事項

- (1) 各大学図書館の年間活動状況について
- (2) 佐賀県読書推進運動協議会・総会の報告について

3. 承合事項

- (1) 各館の危機管理について（提出館：佐賀大学附属図書館）

長崎県大学図書館協議会

1. 令和7年度総会

日 時：令和7年7月18日（金）14:00～15:00

会 場：オンライン開催（Zoom）

出席者：11校12館

オブザーバー：長崎県立長崎図書館

議 題

- (1) 令和6年度事業報告・決算報告・監査報告について
- (2) 令和7年度・8年度役員館等の選出（案）について
- (3) 令和7年度事業計画（案）及び予算（案）について
- (4) Library Lovers' Nagasaki のワーキンググループ活動の休止について

報告事項

- (1) 各館の当面する諸問題について

承合事項

- (1) 除籍方針について
- (2) 電子書籍の利用推進について
- (3) 学生の他大学図書館の来館利用について
- (4) 特設展示の取り組みについて

2. 研修事業

長崎県公共図書館等協議会との合同実務研修会

日 時：令和7年7月7日（月）

10:20～12:00、13:00～16:00

会 場：ミライ on 図書館、WEB参加可

テーマ1：「児童書の修理について」

講 師：浦川 康子 氏（長崎県立長崎図書館）

テーマ2：『第110回全国図書館大会長崎大会』の報告・振り返り」

講 師：四谷 雅代 氏・井手下 由紀 氏・

山口 智子氏（長崎県立長崎図書館）

3. 「長崎県ビブリオバトル交流会」への協力

長崎県ビブリオバトル交流会（令和7年8月23日）開催への協力

4. Library Lovers' Nagasaki 2025

期間：令和7年10月～11月

参加校：9校9館

5館によるワーキンググループでポスター、景品を作成。合同イベントは行わず、10月から11月に各館独自イベント開催。

熊本県大学図書館協議会

1. 令和7(2025)年度総会

日 時：令和7(2025)年6月24日(火)

会 場：熊本大学

当番館：熊本大学附属図書館

出席者：13館(12校)26名

審議事項：

- (1) 令和6(2024)年度総会議事録の確認
- (2) 令和6(2024)年度事業報告について
- (3) 令和6(2024)年度収支決算並びに監査報告について

(4) 令和7(2025)年度事業計画(案)及び予算(案)について

(5) 次年度世話館について

照会事項：

- (1) 自動貸出(返却)機の設置について
- (2) 図書館システムについて
- (3) 夜間開館・休日開館の実施状況等について
- (4) 視聴覚資料の取り扱いについて
- (5) 貴重資料の保管室における湿度管理の方法

について

(6) 大学図書館における図書館ボランティアについて

その他：

以下の内容で意見交換を実施

- (1) 卒業時の返却延滞者への対応について
- (2) 図書収蔵スペースの狭隘化対策について

2. 研修会

研修形式：

You Tube による動画配信方式

研修内容：

「図書館員、必見！カビ対策パーフェクトセミナー(株式会社明治クリックス作成)」の動画視聴

動画視聴期間：

令和7年11月4日(火)～11月28日(金)

※視聴後アンケート実施

大分県大学図書館協議会

1. 令和6年度研修会

日 時：令和7年2月28日(金)13:30～

場 所：日本文理大学図書館

演 題：宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の謎を探る
～新たな望遠鏡で“賢治宇宙”を眺める～

講 師：杉浦 嘉雄 氏(日本文理大学 名誉教授)

(2) 令和6年度決算報告(案)及び監査報告(案)について

(3) 令和7年度事業計画(案)について

(4) 令和7年度予算(案)について

(5) 令和8年度役員館(案)及び当番館(案)について

報告事項：

大分大学横断検索システムについて

講演会：

演題 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」への対応について～大分大学の事例紹介～

講師：梶原 茂寿 氏(大分大学学術情報課)

佐藤 浩彰 氏(大分大学学術情報課)

講演会終了後、情報交換会を開催

2. 令和7年度総会

日 時：令和7年10月29日(水)13:30～

当番館：大分大学学術情報拠点(図書館/医学図書館)

会 場：大分大学学術情報拠点(図書館)

出席館：7館及び大分県立図書館(オブザーバー)

協議事項：

- (1) 令和6年度事業報告について

宮崎県大学図書館協議会

1. 令和6年度 宮崎県大学図書館協議会講演会

日時：令和7年1月10日（金）13:30～16:30

場所：宮崎大学附属図書館

内容：テーマ：オープンアクセスの実務

講義・実習

講師：大石 柁洋 氏（筑波大学）

講師補助：平野 かおる 氏（九州大学）

阿萬 祐典 氏（宮崎大学）

(1) 令和7年度宮崎県大学図書館協議会研修会の共催について

承合事項

(1) 研究データ管理・公開について

(2) 電子書籍導入にあたっての取り組みについて

確認事項

(1) 次年度当番館・幹事館ローテーションについて

2. 令和7年度 宮崎県大学図書館協議会総会

日時：令和7年9月11日（木）14:00～16:00

場所：宮崎県立看護大学 本館2階 大会議室

形態：対面又はオンライン

出席者：8館20名、宮崎県立図書館2名（オブザーバー）

議題：

報告事項

(1) 令和6年度 決算報告及び監査報告

(2) 令和7年度 事業計画及び予算について

協議事項

3. 令和7年度 宮崎県大学図書館協議会研修会

日時：令和7年11月28日（金）13:20～16:05

場所：オンライン（九州地区医学図書館協議会と共催）

内容：テーマ：ノーコード・ローコードツールを活用した図書館業務改善

講義・事例報告

講師：立石 海人 氏（宮崎県ソフトウェアセンター）

演題：Power Automate for desktop 入門

鹿児島県大学図書館協議会活動報告

【第46回鹿児島県大学図書館協議会総会（書面会議）】

日時：令和7年9月29日（月）～10月10日（金）

当番館：鹿児島女子短期大学

出席者：13館（オブザーバー館2館含む）

議事

報告事項

1. 役員館について

2. 会費について

審議事項

1. 令和6年度会務報告

2. 令和6年度決算報告及び監査報告

3. 令和7年度事業計画

(1) 研修委員会活動計画について

(2) 広報委員会活動計画について

4. 令和7年度予算（案）について

5. 協議題「代表館、副代表館、監査館選出ローテーション表の見直しについて」

【講演会】

日時：令和7年12月9日（火）

会場：鹿児島女子短期大学附属図書館

開催形式：ハイブリッド[対面・オンライン]

テーマ：椋鳩十生誕120年記念講演

「椋鳩十 今を生きる私たちへのメッセージ」

講師：久保田 里花 氏

（椋鳩十の孫娘、椋鳩十研究者、

文筆家、「ハトの日」実行委員顧問)

り添った展示づくり—防災専門図書館の展示紹介—

【研修会】

日 時：令和7年12月19日(金)

開催形式：オンライン

テーマ：「防災情報を伝えるために利用者に寄

講師：矢野 陽子 氏

(公益社団法人 全国市有物件災害共済会
防災専門図書館 司書・学芸員)

沖縄県大学図書館協議会

1. 2024 年度研修会

日 時：令和7年1月31日(金) 14:30~16:30

会 場：琉球大学附属図書館本館2階

ラーニング・コモンズ

テーマ：大学図書館員と情報セキュリティ

講師：和知 剛 氏(郡山女子大学短期大学部)

対象：沖縄県内大学等図書館職員

講師：榮野川 敦 氏(名桜大学附属図書館貴重図書調査員)

2. 2025 年度(第53回)総会

日 時：令和7年9月11日(木) 13:00~16:15

場 所：名桜大学 本館4階 第一会議室

当番館：名桜大学附属図書館

出席者：9館22名

議題

- (1) 2024 年度事業報告
- (2) 2024 年度決算報告
- (3) 2024 年度監査報告
- (4) 2025 年度事業計画(案)
- (5) 会費納入に係る会則の改正について(案)
- (6) 2025 年度予算(案)
- (7) 2026 年度の当番館・2025 年度会計監査館の選出
- (8) その他

講演

演題：『湧川文庫』資料について

—貴重資料調査から学んでいること—

3. 2025 年度第1回研修会

日 時：令和7年11月18日(火) 14:00~16:15

会 場：琉球大学附属図書館本館1階

ライブラリーホール

テーマ：大学図書館の広報

第一部講師：一瀬 瞳 氏・橋田 香織 氏(長崎大学学術情報部)

第二部講師：仁上 幸治 氏(図書館サービス計画研究所 代表)

対象：沖縄県内大学等図書館職員

4. JPCOAR 地域ワークショップ@沖縄

日 時：令和7年12月19日(金) 10:00~17:00

会 場：琉球大学附属図書館本館1階

ライブラリーホール

講 師：野中 雄司 氏(京都大学附属図書館)

兵藤 健志 氏(九州大学附属図書館)

南雲 修司 氏(東京学芸大学附属図書館)

対 象：オープンアクセスの動向や、機関リポジトリ実務に関心のあるもの

令和7年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日時：令和7年12月17日(水) 13:45～14:45
場所：九州大学附属図書館 医学分館1F 館長室
出席者：10 大学11名(対面5名、オンライン6名)
○テーマ
1. 図書館が直面している課題について：電子

ジャーナル、OA 義務化、研究データ、図書館運営費の確保、AI 対応、利用者数・貸出数の増減、その他の将来的課題
2. その他

令和7年度九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長懇談会

日時：令和7年12月17日(水) 13:45～14:45
場所：九州大学附属図書館 医学分館3F 会議室
出席者：11 大学22名(対面15名、オンライン7名)

○情報共有・意見交換
1. 即時OA 義務化への対応状況について
2. その他

令和7年度九州地区国立大学図書館協会総会

日時：令和7年12月17日(水) 15:00～16:30
場所：九州大学附属図書館 医学分館3F 会議室
出席者：11 大学32名(対面20名、オンライン12名)
○報告
1. 館長懇談報告
2. 事務(部・課)長懇談会報告
3. 令和7年度国立大学図書館協会秋季理事会について(九州大学)
4. 令和7年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議について(九州大学)
5. 令和7年度九州地区研修企画(国立大学図書館協会助成事業)について(九州大学)

6. 令和7年度九州地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験について(九州大学)
○協議題
1. 令和8年度九州地区国立大学図書館協会代表館及び副代表館選出について(九州大学)
2. 令和8年度九州地区国立大学図書館協会総会当番館の選出について(九州大学)
3. 令和8年度九州地区大学図書館協議会役員館の選出について(九州大学)
○意見交換・情報共有
1. 各館の近況報告
2. その他

令和7年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議

日時：令和7年11月7日(金) 14:30～16:30
場所：九州大学附属図書館（中央図書館4階会議室）
出席者：11大学15名

協議事項

- (1) リポジトリによる即時 OA 義務化対応の課題と方策について（九州大学）
関連する以下の取組状況についても議論を行った。
- ・学内体制・部局連携
 - ・リポジトリ運用とシステム整備
 - ・研究者への周知と意識醸成
 - ・APC 支援

承合事項

- (1) 学生アルバイトの雇用について（九州工業大学）

- (2) 図書館職員による選書方法について（熊本大学）
(3) 利用者が図書を紛失・汚損等した際、本人の責任でない場合等における弁償免除の条件について（大分大学）
(4) 図書館の広報や利用案内等における動画コンテンツの活用について（宮崎大学）
(5) 研究室等部局利用の個人利用向け電子書籍（kindle 等）の購入について（鹿児島大学）
(6) 電子ジャーナル及びデータベースの支払時期について（鹿屋体育大学）

その他

次年度の会議テーマについて検討を行い、以下のテーマを提案した。

サービス系：「AI を活用した図書館サービス」について

私立大学図書館協会西地区部会 九州地区協議会

【2025（令和7）年度 九州地区協議会】

日時：令和7年4月14日（月）～18日（金）
場所：メール会議
出席者：48校

1. 報告事項

(1) 九州地区協議会関係

- ①2024年度九州地区協議会及び決算報告
- ②2024（令和6）年度第1回定例幹事会報告
- ③2024年度九州地区研究会及び決算報告
- ④2024年度九州地区研究会準備委員会報告
- ⑤2024（令和5）年度第2回定例幹事会報告
- ⑥2024年度九州地区協議会臨時メール会議報告

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

- ①九州地区大学図書館協議会総会

(3) 西地区部会関係

- ①2025年度西地区部会事業計画（案）について

- ②2025年度西地区部会総会開催要項（案）について

- ③2025年度西地区部会研究会開催要項（案）について

- ④2025年度西地区部会予算（案）について

- ⑤2025年度予算の暫定執行について

- ⑥2025年度西地区部会関連行事日程（案）について

- ⑦2025・2026年度西地区部会役員校・当番校について

- ⑧協会3委員会委員校について

- ⑨参考資料

(4) 私立大学図書館協会関係

- ①2024年度協会役員校、委員会委員および

協会関連団体委員

- ②第 86 回（2025 年度）総会・研究大会（案）について
- ③2025 年度行事・会議予定（案）について
- ④第 85 回（2024 年度）総会・研究大会の報告について
- ⑤委員会報告について
- ⑥協会会務報告について

2. 協議事項

(1) 九州地区協議会関係

- ①2025 年度九州地区協議会予算（案）について
- ②2025 年度九州地区協議会研究会について
- ③九州地区協議会役員校等ローテーション表について

④地区別加盟校名簿（五十音順）について

⑤2025 年度九州地区協議会年会費について

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

- ①2025 年度九州地区大学図書館協議会の役員校について

3. 確認事項

- (1) 「加盟校基礎データ変更届」について
- (2) 九州地区協議会メーリングリストについて
- (3) 九州地区協議会年度別幹事校
- (4) 本会関係行事・会議等スケジュール

4. その他

- (1) 2025 年度の当番校・幹事校・役員校等の紹介

事務局報告

令和7年度以降の九州地区大学図書館協議会総会の 開催時期について

令和7年3月11日付けでお諮りしておりました標記の件につきまして、ご了承いただきましたので、ご報告申し上げます。

標記総会は、年度当初に議決が必要な予算・決算及び幹事館報告、次期役員館当番館の選出について従前どおり6月初旬までを目途に書面で開催することとし、対面行事のみを8～9月頃に開催することといたします。

なお、対面行事については、令和7年度当番館である九州大学が開催を試行する予定ですが、令和8年度以降の開催については、当番館において会場等の借上げの業務や、各加盟館の行事等を踏まえ、従前どおり幹事館において、開催の可否及び開催日時等を当番館及び副幹事館に照会しつつ、協議のうえ決定することとします。

令和7年度九州地区大学図書館協議会幹事館・副幹事館会議

令和7年11月26日（水）に書面回議により開催の結果、「第76回九州地区大学図書館協議会総会記録（案）」及び「令和7年度九州地区大学図書館協議会交流集会・施設見学会記録（案）」について審議の結果、意見等の申し出がなかったため、原案のとおり承認された。

議題

1. 第76回九州地区大学図書館協議会総会記録（案）について

今年度当番館 九州大学附属図書館から、第76回九州地区大学図書館協議会総会記録（案）の提出がありましたので、内容をご確認ください。

2. 令和7年度九州地区大学図書館協議会交流集会・施設見学会記録（案）について

今年度当番館 九州大学附属図書館から、令和7年度九州地区大学図書館協議会交流集会・施

設見学会記録（案）の提出がありましたので、内容をご確認ください。

3. その他

① 九州地区大学図書館協議会総会における協議事項等について

ご意見等がおありでしたらお知らせください。なお、協議事項等は別途第77回総会当番館（大分大学附属図書館）から照会します。

② 副幹事館、表彰委員館、編集委員館の交代について

副幹事館は、任期が2年間（令和7年度～令和8年度）のため、選出不要です。

なお、表彰委員館、編集委員館の任期は1年間（再任は妨げない）ですので、各部会において当番館のご検討をお願いいたします。

第76回九州地区大学図書館協議会総会（書面回議）記録

日 程 表

- | | |
|---|-----------------------------|
| <p>1. 書面回議開催通知日
令和7年8月6日（水）</p> <p>2. 回答期限
令和7年8月22日（金）</p> | <p>3. 当番館
九州大学附属図書館</p> |
|---|-----------------------------|

第76回九州地区大学図書館協議会総会（書面回議）議事要録

1. 報告事項

資料に基づき、本協議会の活動について報告した。

関する申合せの施行、メーリングリストの運用に関する申合せの施行、ホームページの運用についての申合せの改正について提案があり、協議の結果、提案どおり了承された。

2. 決算・予算

- (1) 令和6年度決算及び監査報告が了承された。
- (2) 令和7年度予算（案）が了承された。

4. 次期役員館・当番館の選出

- (1) 幹事館を九州大学とすることについて了承された。
- (2) 幹事館以外の次期役員館と当番館について以下のとおり了承された。

3. 協議事項

九州地区大学図書館協議会の後援名義に

	大学名
副幹事館	国立大学部会：長崎大学 公立大学部会：名桜大学 私立大学部会：久留米大学
監査館	福岡女子大学
表彰委員館	国立大学部会：琉球大学 公立大学部会：福岡女子大学 私立大学部会：西南学院大学
編集委員館	国立大学部会：熊本大学 公立大学部会：北九州学術研究都市 私立大学部会：福岡女学院大学
次期当番館（R8）	中部地区：大分大学

※その他

総会（書面回議）に先立ち回答いただいた承合事項の内容についても取り纏め共有した。

令和6年度決算

一般会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
会費	438,000	438,000	総会運営費	0	0
協議会誌代	111,200	111,200	協議会誌発行費	250,000	242,000
広告掲載料	250,000	200,000	事務費	35,000	34,692
広告掲載料	200,000	50,000	積立金会計へ繰入	714,200	522,508
小計	999,200	799,200	小計	999,200	799,200

積立金会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
前年度繰越金	1,863,409	1,863,409	表彰経費	75,000	82,082
預金利息	17	1,076	研修会経費	50,000	0
一般会計から繰入	714,200	522,508	研修会補助費	180,000	82,261
			次年度繰越金	2,272,626	2,222,650
小計	2,577,626	2,386,993	小計	2,577,626	2,386,993

令和7年3月24日 会計監査実施済
 監査館 福岡教育大学 学術情報センター 図書館
 学術情報課副課長



石丸 律

令和7年度予算(案)

一般会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
会費	438,000	@6,000円×73館	総会運営費	0	0 当番館：九州大学
協議会誌代	111,200	第67号(令和6年度)@800円×139部	協議会誌発行費	250,000	第68号(令和7年度)200部
広告掲載料	210,000	13社 第68号(令和7年度)見込み分	事務費	35,000	会誌送料、送金手数料、消耗品費
広告掲載料	160,000	9社 第67号(令和6年度)未収分	積立金会計へ繰入	634,200	総会講演会謝金・研修事業補助
小計	919,200		小計	919,200	

積立金会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
前年度繰越金	2,222,650		表彰経費	75,000	令和6年度予算額を参照
預金利息	1,076		研修会経費	50,000	総会講演会謝金
一般会計から繰入	634,200		研修会補助費	180,000	各県協議会研修経費補助(9地区×20,000円)
			次年度繰越金	2,552,926	
小計	2,857,926		小計	2,857,926	

令和7年度九州地区大学図書館協議会 交流集会・施設見学会記録

1. 日 時：令和7年9月1日（月） 14時～17時30分 ハイブリッド方式
2. 場 所：九州大学附属図書館 中央図書館4階 Sky Cute.Commons
3. 出席者：対面参加11館21名、オンライン参加19館40名

令和7年度九州地区大学図書館協議会 交流集会・施設見学会議事要録

1. 報告事項

(1) 部会活動報告

国立大学部会：九州大学/阿蘇品図書館企画課長
 公立大学部会：福岡女子大学/大瀧主査
 私立大学部会：久留米大学/野田医学図書館課長

(2) 加盟館からの報告

「地域との連携について」 九州産業大学/中村係長
 「電子ブック利用促進キャンペーンの実施について」 熊本大学/前田主任、綾部係員
 「貸出データ分析の一步～散布図を使った試み」 九州大学/吉松専門員
 「OA意識調査アンケートの実施」 九州大学/星子専門員

(3) 永年勤続表彰

「九州地区大学図書館協議会表彰規程」
 (参考)に基づき、表彰を受ける者を各大学へ照会したところ、表彰規程の第2条1号(勤務期間20年に達した者)に4名

の推薦があり、表彰委員会による審査の結果、全員の表彰を決定した。

なお、当日ご出席されていた鹿児島大学の西菌様、純真学園大学の末益様へ表彰状の授与を行った。

① 勤務期間20年に達した者(表彰規程第2条第1号)

(所属機関、氏名の50音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第1号	宮崎大学 附属図書館	市原 瑞基
2	〃	鹿児島大学 附属図書館	西菌 由依
3	〃	純真学園大学 図書館	末益 清美
4	〃	鹿児島国際大学 附属図書館	濱田 照美

2. 講演

「大学における研究データ管理について」
 講師 九州大学データ駆動イノベーション
 推進本部 研究データ管理支援部門長
 富浦洋一 教授

3. 施設見学会

中央図書館内を2班に分かれ30分程度

4. 意見交換会

研究データ管理に関する相談、質問等

九州地区大学図書館協議会会則

昭和 25 年 11 月 27 日施行
昭和 32 年 9 月 12 日改正
昭和 41 年 6 月 2 日改正
昭和 51 年 4 月 23 日改正
昭和 55 年 5 月 9 日改正
平成 9 年 4 月 25 日改正
平成 10 年 4 月 24 日改正
平成 20 年 4 月 18 日改正
令和 5 年 6 月 22 日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は 2 年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学及び私立大学の各部会からそれぞれ 1 館を総会で互選し、その任期は 2 年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は 1 年とする。但し、再選できない。

(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和 32 年 9 月 12 日決定

昭和 37 年 10 月 2 日改正

昭和 48 年 5 月 11 日改正

昭和 53 年 5 月 12 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

平成 26 年 4 月 18 日改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及

び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。

但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。

5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に会員のための研修会を行うものとする。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和 32 年 9 月 1 日施行

平成 9 年 4 月 25 日改正

平成 20 年 4 月 18 日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会 会員の紹介書（別記様式 1）により、入会申込書（別記様式 2）を、総会の 3 ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
 - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
 - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

別記様式 1

九州地区大学図書館協議会入会紹介書

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

別記様式 2

九州地区大学図書館協議会入会申込書

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、令和 年度からの入会を申し込みます。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：
(電話、FAX 番号)
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：(別紙)
9. 紹 介 館 名：

別紙

図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号)		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m ²	閲覧座席数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年間受入図書冊数	冊	年間受入雑誌種数	種
年 間 開 館 日 数	日	通常開館時間	時 分～ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉仕対象教職員数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図書貸借	1 実施 2 未実施	
	文献複写	1 実施 2 未実施	
学外者へのサービス	1 実施 2 未実施		
コンピュータの導入	1 導入済 2 未導入		
コンピュータの適用業務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネットワーク環境	1 学内 LAN 接続済 2 インターネット接続済		
国立情報学研究所との接続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行
平成5年4月23日改正
平成11年4月23日改正
令和5年6月22日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立及び私立の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選

考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立及び私立の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年6月22日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

文書番号

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長 殿

〇〇大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇

令和 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

表彰状様式（1）第2条第1号該当者

表 彰 状

殿

あなたは 年のがい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式（2）第2条第2号該当者

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定
平成7年9月 1日改正
平成8年4月24日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月25日改正
平成15年4月25日改正
平成24年4月20日改正
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して2万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

別 紙

経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

令和 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

令和 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館 殿

組織名
代表者
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 令和 年 月 日 () 時 分 至 令和 年 月 日 () 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 職 電話

*研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

副幹事館の役割

平成 10 年 8 月 31 日
幹事館・副幹事館会議

- 1 通常時
 1. 年度の事業・活動についての立案・協議
 2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
 3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
 4. ホームページ充実のための提言案、意見具申
- 2 会誌発行時
各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等
- 3 総会時
 1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
 2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
 3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認
- 4 その他
別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成 10 年 8 月 31 日施行
平成 20 年 1 月 30 日改正
令和 7 年 9 月 1 日改正
幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。
(URL <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>)
2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとする。

○加盟館一覧

- ・ 国立大学
- ・ 公立大学
- ・ 私立大学
- ・ 未加盟館

○九州地区大学図書館協議会誌

○地区内各館の相互利用案内

○規則類

- ・ 九州地区大学図書館協議会会則
- ・ 九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則
- ・ 九州地区大学図書館協議会入会に関する細則
- ・ 九州地区大学図書館協議会会誌編集に関する内規
- ・ 九州地区大学図書館協議会表彰規程
- ・ 研修会の補助に関する申合せ

○資料等

- ・ 国立大学図書館協会地区協議会助成事業研修会報告
- ・ 2013. 4. 19 九州地区大学図書館協議会総会 Library Lovers' キャンペーン実施報告

4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。

事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

九州地区大学図書館協議会の後援名義に関する申合せ

令和7年9月1日施行
九州地区大学図書館協議会

(趣旨)

1. この申合せは、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）において、加盟館が主催する事業について、後援名義を使用する場合に必要な事項を定めるものとする。

(定義)

2. 後援名義を使用する場合とは、加盟館が主催する事業について、協議会がその趣旨に賛同し、協力する場合であって、その範囲が原則として名義の使用に限る場合をいう。

(共催等の要件)

3. 後援名義の使用許諾を受けることができる事業は、次の各号のいずれにも該当するものでなければならない。

(1) 協議会の目的の達成に寄与すると認められること。

(2) 政治活動、宗教活動又は営利事業の一環として行われたいこと。

(3) 参加者等に生じた損害について、協議会が賠償責任を負わないものであること。

(申請)

4. 後援名義の使用許諾を受けようとする加盟館は、事業計画書若しくはチラシ案を添付して、原則として当該事業開催予定日の1か月前までに幹事館に提出しなければならない。

(承諾等)

5. 協議会の幹事館は、前条の事業計画書若しくはチラシ案を受理したときは、幹事館において事業内容を精査・処理し、必要により条件を付して加盟館に通知するものとする。

(取消し)

6. 幹事館は、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当するときは、後援名義の承諾を取り消すものとする。

(1) 第3条に該当しないことが判明したとき。

(2) その他、幹事館が取消しが必要と認めたとき。

7. 承諾の取消しにより、加盟館が損害を受けた場合においても、協議会はその賠償の責を負わない。

(事務)

8. 後援名義の使用許諾に係る事務は、幹事館において処理する。

附則

この申合せは、令和7年9月1日から施行する。

九州地区大学図書館協議会メーリングリストの運用に関する申合せ

令和7年9月1日施行
九州地区大学図書館協議会

(趣旨)

この申合せは、加盟館間の情報交換、広報、調査、業務連絡を目的に加盟館が自由に活用するために開設された九州地区大学図書館協議会メーリングリスト（以下「ML」という。）の活用に関し、必要な事項を定めるものとする。

1. 利用資格

九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟している図書館職員とする。

2. 管理者

協議会の幹事館が管理する。

3. 注意事項

MLで使用できるメールのサイズは1通当たりの送受信メッセージサイズは25MB以下に制限されているため、これ以上のサイズのメールを送付しないよう留意する。

4. 禁止事項 次の行為を禁止する。

- (1) 企業、商品などを広告する行為
- (2) 思想、宗教などを宣伝する行為
- (3) 法令に反する、または違反するおそれのある行為
- (4) 公序良俗に反する行為、または反するおそれのある行為
- (5) その他、第三者に不利益または損害を与える行為

5. 罰 則

禁止事項を違反した場合は、利用資格を停止する。

附 則

この申合せは、令和7年9月1日から施行する。

九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

2026(R8).1.1 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 安永卓生, 情報基盤課長 播磨良輔)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3073
	福岡教育大学 学術情報センター図書館 (センター長 伊藤克治, 学術情報課長 豊村雅義)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1849 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 内田誠一, 事務部長 鈴木雅子)	819-0395	福岡市西区元岡744	092-802-2470 (092-802-2474)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 中村博和, 学術研究部長 溝口寛士)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 浜田久之, 学術情報部長 佐藤千夏)	852-8521	長崎市文教町1番14号	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 高野博嘉, 教育研究支援部長 森田寿裕)	860-8555	熊本市中央区黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 中島 誠, 研究推進部長 平井敏彦)	870-1192	大分市大字且野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 藤井良宜, 事務長 寸田五郎)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985-58-2879 (0985-58-2880)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 山本智子, 情報推進部長 佐藤 秀)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21番35号	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 関 朋昭, 国際・学術情報課長 仮屋菫史恵)	891-2393	鹿児島市白水町1番地	0994-46-4874 (0994-46-4157)
琉球大学 附属図書館 (館長 東矢光代, 事務部長 結城憲司)	903-0214	中頭郡西原町字千原1番地	098-895-8153 (098-895-8154)	
公 立	北九州市立大学 図書館 (館長 浅野修丈, 地域貢献課長 藤嶋昌彦)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4404 (093-964-4437)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 古株彰一郎, 学務部長 古賀 司)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	北九州学術研究都市 学術情報センター (総務企画部長 森 善裕, 学術情報担当課長 上野信成)	808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 渡邊 俊, 副館長 近藤洋平)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 石崎龍二, 学務部長 樋口佳代)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	長崎県立大学 附属図書館 (館長 綱 辰幸, 佐世保校図書館課長 野中哲也)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 学術情報メディアセンター図書館 (館長 江崎一朗, 事務長 武末俊光)	862-8502	熊本市東区月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 森口真司, 企画情報課長 阿南修次)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 福田広美, 財務グループリーダー 小野逸郎)	870-1201	大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 森部陽一郎, 企画総務課長 東 洋一)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
	宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 串間敦郎, 総務課長 衛藤洋介)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
	鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 木戸裕子, 副館長 内宮佳寿美)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-803-4475 (099-803-4473)
	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 宮里智子, 主事 下地智子)	902-8513	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
公立	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 森 達也, 主査 久手堅文子)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名城大学 附属図書館 (館長 小番 達, 図書課長 神谷順子)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-54-0052)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 川崎敏之, 学務課長 宇佐圭司)	800-0394	福岡県京都市都荏田町新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 岡田和敏, 課長 垂水典子)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 赤松貴文, 主任司書 内川 梓)	803-8511	北九州市小倉北区下到津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	九州国際大学 図書館 (館長 山口秋義, 事務室長 井上秀一(兼務))	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 川面 剛(兼務), 図書情報課長補佐 原口 誠)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 島尻芳人(兼務), 図書情報課長補佐 原口 誠)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 土屋麻衣子, 情報企画課長 藤原昭二)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 大國真希, 事務室長 梶原竜一)	811-1313	福岡市南区日佐3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 西村香織, 事務部長 宮丸由美子)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5999) (092-673-5926)
	福岡国際医療福祉大学 図書館 (館長 白石順二, 司書 井村普也)	814-0001	福岡市早良区百道浜3丁目6の40	092-832-1200 (092-832-1167)
	福岡大学 図書館 (館長 佐藤 伸, 事務部長 上畠宏美)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 メディアセンター (センター長 今井克己, 部長 溝口 恒)	814-0198	福岡市城南区別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 加藤洋介, 事務部長 平山 崇)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2番92号	092-823-3426 (092-823-3480)
	純真学園大学 図書館 (館長 石橋孝明, 主任 山本哲也)	815-0036	福岡市南区筑紫丘1丁目1番1号	092-541-1527 (092-541-1542)
	第一薬科大学 図書館 (館長 小山 進)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-542-5698)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 車 炳圮, 図書館司書 井上理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学園大学 附属図書館 (学術情報部長 高木佳世子, 大学総務班主査 山崎栄子)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12-1	092-925-9910 (092-925-3318)
	久留米工業大学 学術情報センター(図書館) (館長 麻生 茂, 図書館事務室長 柿田正裕)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-65-3480 (0942-22-2385)
	久留米大学 附属図書館 (館長 桑野栄治, 課長 中島陽之)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	国際医療福祉大学 大川キャンパス図書館 (館長 小荒田秀一, 事務部長 中村泰弘)	831-8501	大川市榎津137-1	0944-89-2143 (0944-86-6000)
西九州大学 附属図書館 (館長 近藤芳昭, 小城キャンパス総務課長兼図書課長 奥 慎一郎)	842-8585	神崎市神崎町尾崎4490-9	0952-37-9299 (0952-53-7869)	
活水女子大学 図書館 (館長 浜谷信彦, 図書課長 三浦秀成)	850-8515	長崎市東山手町1-50	095-820-6028 (095-823-3701)	
長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 板倉数記, 総務部 情報・図書担当次長 陣野純子)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5141	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号	
私	長崎外国語大学 教育研究メディアセンター (センター長 野田雄史, 総務課長(ライブラリー事務室兼務) 一宮啓祥)	851-2196	長崎市横尾3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)	
	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 浜口美由紀, 図書課長 熊野志保)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)	
	鎮西学院大学 附属図書館 (館長 菅原良子, 司書 天野みゆき)	854-0082	諫早市西栄田町1212-1	0957-26-8203 (0957-26-0244)	
	長崎国際大学 図書館 (館長 岸原健二, 図書課長 久保隆司)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)	
	崇城大学 図書館 (館長 関根浩子, 課長 早見久美子)	860-0082	熊本市西区池田4丁目22-1	096-326-3419 (096-359-3002)	
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 有村達之, 総務課図書館担当 緒方 聡)	860-8520	熊本市中央区黒髪3丁目12-16	096-343-1600 (096-343-0354)	
	熊本学園大学 付属図書館 (館長 土井浩嗣, 図書情報課長 法川ゆかり)	862-8680	熊本市中央区大江2丁目5番1号	096-371-8047 (096-364-5173)	
	東海大学 九州カレッジオフィス 熊本図書館 (館長 前田芳男)	862-8652	熊本市東区渡鹿9-1-1	096-386-2634 (096-386-2769)	
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 古閑陽一, 教学支援課長 山崎栄子)	861-5598	熊本市北区和泉町325	096-275-2264 (096-275-2265)	
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 竹中 健, 図書課長 上野伸一)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)	
	日本文理大学 図書館 (館長 池畑義人, 係長 渡辺浩江)	870-0397	大分市大字一木1727	097-524-2711 (097-593-5166)	
	立命館アジア太平洋大学 ライブラリー (総合情報センター長 Khan Muhammad T, アカデミック・オフィス課長 山下啓祐)	874-8577	別府市十文字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)	
	別府大学 附属図書館 (館長 松田美香, 総務・研究推進課長 畑中美智子)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9632)	
	九州医療科学大学 附属図書館 (館長 大倉正道, 課長 大石正憲)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)	
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 矢鋪 渉, 課長 廣澤康介)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)	
	南九州学園 図書館 (館長 植村秀人, 図書課長 赤木裕美)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)	
	宮崎学園 図書館 (宮崎国際大学・宮崎学園短期大学) (館長 川越勇二, 司書 古瀬菜津美)	889-1605	宮崎市清武町加納丙1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)	
	立	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 山下孝子, 図書館次長 津曲新一)	891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-263-0732 (099-261-1198)
		鹿児島純心大学 附属図書館 (館長 仙波玲子, 図書課長 岩永眞佐子)	895-0011	薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)
		志學館大学 図書館 (館長 畑井清隆, 主任司書 荻迫 香)	890-8504	鹿児島市紫原一丁目59-1	099-812-8501 (099-257-0308)
沖縄国際大学 図書館 (館長 山口真也, 課長 井口 忠)		901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 崔珉 寧, 事務長 城間尚樹)		902-8521	那覇市字国場555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 上原明子, 課長 多根宏治)		903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)	
沖縄科学技術大学院大学 図書館 (館長 エヴァン エコノモ, マネージャー 上原藤子)		904-0495	沖縄県国頭郡恩納村字茶谷1919-1	098-982-3769	

九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南学院大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南学院大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南学院大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南学院大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南学院大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南学院大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短期大学 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短期大学 西南学院大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回数)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成 10 年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成 11 年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成 12 年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成 13 年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成 14 年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成 15 年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園 大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・短期大学 九州大学 宮崎大学
平成 16 年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志学館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・南九州短期大学 西南女学院大学・短期大学
平成 17 年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大学	琉球大学 沖縄県立看護大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学
平成 18 年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐賀大学 鹿児島県立短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	鹿屋体育大学 福岡県立大学 筑紫女学園大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成 19 年度 (58)	九州大学	国 公 私 短	熊本大学 宮崎県立看護大学 福岡大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	中村学園大学	九州工業大学 九州歯科大学 久留米工業大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡教育大学 福岡女子大学 九州女子大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成 20 年度 (59)	九州大学	国 公 私 私短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	福岡教育大学	宮 崎 大 学 大 分 県 立 看 護 科 学 大 学 別 府 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	長 崎 大 学 九 州 歯 科 大 学 鹿 児 島 国 際 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>
平成 21 年度 (60)	九州大学	国 公 私 私短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福岡女子大学	福 岡 教 育 大 学 宮 崎 公 立 大 学 福岡国際大学・福岡女子短期大学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	鹿 児 島 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 中 九 州 短 期 大 学
平成 22 年度 (61)	九州大学	国 公 私 私短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福岡大学	長 崎 大 学 福 岡 女 子 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	九 州 工 業 大 学 <small>北九州学術研究都市学術情報センター</small> 活 水 女 子 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>
平成 23 年度 (62)	九州大学	国 公 私 私短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	福岡工業大学	鹿 児 島 大 学 大 分 県 立 芸 術 文 化 短 期 大 学 福 岡 女 学 院 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	佐 賀 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 国 際 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学
平成 24 年度 (63)	九州大学	国 公 私 私短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	筑紫女学園 大学・短期大学	大 分 大 学 沖 縄 県 立 看 護 大 学 九 州 東 海 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	琉 球 大 学 福 岡 女 子 大 学 沖 縄 国 際 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学
平成 25 年度 (64)	九州大学	国 公 私 私短	鹿 児 島 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 久 留 米 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	西南学院大学	鹿 屋 体 育 大 学 北 九 州 市 立 大 学 九 州 共 立 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	宮 崎 大 学 九 州 歯 科 大 学 聖 マ リ ア 学 院 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学
平成 26 年度 (65)	九州大学	国 公 私 私短	鹿 児 島 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 久 留 米 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	九州産業大学	熊 本 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 保 健 福 祉 大 学 東 九 州 短 期 大 学	大 分 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 九 州 大 学 東 九 州 短 期 大 学
平成 27 年度 (66)	九州大学	国 公 私 私短	鹿 屋 体 育 大 学 九 州 歯 科 大 学 沖 縄 国 際 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	中村学園	琉 球 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 九 州 情 報 大 学 福 岡 国 際 大 学 福 岡 女 子 短 期 大 学	熊 本 大 学 北 九 州 学 術 研 究 都 市 学 術 情 報 セ ン タ ー 西 日 本 工 業 大 学 福 岡 国 際 大 学 福 岡 女 子 短 期 大 学
平成 28 年度 (67)	九州大学	国 公 私 私短	鹿 屋 体 育 大 学 九 州 歯 科 大 学 沖 縄 国 際 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	福岡教育大学	佐 賀 大 学 北 九 州 学 術 研 究 都 市 学 術 情 報 セ ン タ ー 長 崎 総 合 科 学 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	福 岡 教 育 大 学 福 岡 女 子 大 学 沖 縄 キ リ ス ト 教 学 院 大 学 鹿 児 島 女 子 短 期 大 学
平成 29 年度 (68)	九州大学	国 公 私 私短	琉 球 大 学 大 分 県 立 看 護 科 学 大 学 九 州 国 際 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 東 筑 紫 短 期 大 学	福岡女子大学	九 州 工 業 大 学 長 崎 県 立 大 学 西 日 本 工 業 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 東 筑 紫 短 期 大 学	鹿 屋 体 育 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 情 報 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 東 筑 紫 短 期 大 学
平成 30 年度 (69)	九州大学	国 公 私 私短	琉 球 大 学 大 分 県 立 看 護 科 学 大 学 九 州 国 際 大 学 九 州 栄 養 福 祉 大 学 東 筑 紫 短 期 大 学	福岡大学	宮 崎 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 沖 縄 科 学 技 術 大 学 院 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	長 崎 大 学 九 州 歯 科 大 学 熊 本 保 健 科 学 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学
平成 31 年度 (70)	九州大学	国 公 私 私短	佐 賀 大 学 宮 崎 公 立 大 学 福 岡 工 業 大 学 福 岡 女 子 短 期 大 学	福岡工業大学	福 岡 教 育 大 学 福 岡 県 立 大 学 純 真 学 園 大 学 福 岡 女 子 短 期 大 学	鹿 児 島 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 福 岡 女 子 短 期 大 学

年次 (回次)	幹事館	副幹事館		監査館	表彰委員館	編集委員館
令和2年度 (71)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 福岡女子短期大学	筑紫学園大学	長崎大学 大分県立看護科学大学 九州ルーテル学院大学 鹿児島女子短期大学	九州工業大学 北九州学術研究都市 学術情報センター 宮崎国際大学 鹿児島女子短期大学
令和3年度 (72)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 福岡女子大学 福岡工業大学 鹿児島女子短期大学	西南学院大学	鹿児島大学 宮崎公立大学 九州国際大学 九州栄養福祉大学・ 東筑紫短期大学	佐賀大学 福岡女子大学 久留米工業大学 九州栄養福祉大学・ 東筑紫短期大学
令和4年度 (73)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 福岡女子大学 福岡工業大学 鹿児島女子短期大学	九州産業大学	大分大学 九州歯科大学 鹿児島純心女子大学 鹿児島純心女子短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鎮西学院大学 鹿児島純心女子短期大学
令和5年度 (74)	九州大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本県立大学 久留米大学	中村学園大学	鹿屋体育大学 大分県立芸術文化短期大学 第一薬科大学	宮崎大学 九州歯科大学 九州女子大学・短期大学
令和6年度 (75)	九州大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本県立大学 久留米大学	福岡教育大学	熊本大学 沖縄県立看護大学 西九州大学	大分大学 北九州市立大学 別府大学
令和7年度 (76)	九州大学	国 公 私	長崎大学 名桜大学 久留米大学	福岡女子大学	琉球大学 福岡女子大学 西南学院大学	熊本大学 北九州学術研究都市 福岡女学院大学

九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大 学
2	26	熊本	熊本大 学
3	27	長崎	長崎大 学
4	28	佐賀	佐賀大 学
5	29	鹿児島	鹿児島大 学
6	30	宮崎	宮崎大 学
7	31	大分	大分大 学
8	32	福岡	西南学院大 学
9	33	福岡	九州大 学
10	34	熊本	熊本大 学
11	35	福岡	九州工業大 学
12	36	長崎	長崎大 学
13	37	福岡	福岡大 学
14	38	佐賀	佐賀大 学
15	39	福岡	福岡教育大 学
16	40	宮崎	宮崎大 学
17	41	福岡	八幡大 学
18	42	鹿児島	鹿児島大 学
19	43	福岡	九州大 学
20	44	熊本	熊本商科大 学
21	45	福岡	久留米大 学
22	46	大分	大分大 学
23	47	福岡	北九州大 学
24	48	長崎	長崎大 学
25	49	福岡	九州産業大 学
26	50	佐賀	佐賀大 学
		〃	佐賀龍谷短期大 学
27	51	沖縄	琉球大 学
28	52	福岡	九州大 学
29	53	大分	大分大 学
30	54	宮崎	宮崎大 学
31	55	福岡	九州歯科大 学
		〃	福岡女子大 学
		〃	福岡県社会保険短期大 学
32	56	熊本	熊本女子大 学
33	57	鹿児島	鹿児島大 学
		〃	鹿児島県立短期大 学
		〃	鹿児島経済大 学
34	58	福岡	西日本工業大 学

回次	年度	県別	大 学
35	59	長崎	長崎大 学
36	60	宮崎	宮崎医科大 学
		大分	大分県立芸術短期大 学
		宮崎	南九州大 学
		長崎	純心女子短期大 学
37	61	福岡	九州芸術工科大 学
38	62	佐賀	佐賀医科大 学
39	63	沖縄	琉球大 学
40	平成元	福岡	北九州大 学
41	2	大分	大分医科大 学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大 学
43	4	福岡	西南学院大 学
44	5	熊本	九州東海大 学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大 学
46	7	福岡	九州工業大 学
47	8	長崎	長崎大 学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大 学
49	10	福岡	福岡女子大 学
50	11	佐賀	佐賀大 学
51	12	沖縄	沖縄国際大 学
52	13	福岡	九州女子大 学
53	14	大分	大分大 学
54	15	宮崎	宮崎大 学
55	16	福岡	福岡教育大 学
56	17	熊本	熊本大 学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大 学
58	19	福岡	九州大 学
59	20	長崎	長崎大 学
60	21	沖縄	琉球大 学
61	22	福岡	福岡県立大 学
		〃	九州歯科大 学
		〃	北九州学術研究都市（学術情報センター）
62	23	佐賀	佐賀大 学
63	24	鹿児島	鹿児島大 学
64	25	福岡	福岡教育大 学
65	26	大分	大分大学学術情報拠点
66	27	宮崎	宮崎大 学
67	28	福岡	九州大 学
68	29	長崎	長崎大 学

回次	年度	県別	大 学
69	30	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
70	31	福 岡	九 州 工 業 大 学
71	令和2	熊 本	熊 本 大 学
72	3	沖 縄	琉 球 大 学
73	4	福 岡	福 岡 教 育 大 学
74	5	佐 賀	佐 賀 大 学
75	6	鹿児島	鹿 児 島 大 学
76	7	福 岡	九 州 大 学
77	8	大 分	大 分 大 学

空間をデザインする

金剛は、お客様と共に
それぞれの施設に応じた空間・環境づくりを行っています。



安心と先進で社会文化に貢献する

 **金剛株式会社**

www.kongo-corp.co.jp

熊本本社 / 熊本市西区上熊本 3 丁目 8-1 TEL(096)355-1111(大代)

九州支店 / 福岡市博多区博多駅前 2-20-15 第7岡部ビル 9F

TEL(092)433-3988

支店・営業所 / 仙台・東京・名古屋・金沢・大阪・広島・岡山・高松・
福岡・大分・長崎・佐賀・熊本・八代・天草・宮崎・
鹿児島・沖縄



お問い合わせ
急増中！



簡単でスピーディーな文献入手を実現する 年間購読型 ILL プラットフォーム

RapidILL は、ILL の合理化、所要時間の短縮、さらにコスト削減に役立ちます。
利用文献数に関わらず年間利用料のみでご利用いただけるので、予算も立てやすいです。



探している文献を 高確率で入手

全世界の 600 以上の様々な機関が
参加しているため、
お探しの文献を高確率（約 95%）



スピーディーな納品

文献はシステムを通じて電子媒体で
提供されるため、素早く納品されます。
24 時間以内の納品を目標としており、
現在の平均時間は約 11 時間程度と
なっております。



予算が立てやすい

年間サブスクリプション型
サービスなので、
コスト管理が容易です。



手間を削減

文献のリクエスト先はシステムが
自動的に選択するため、
調査・コミュニケーションコストを

Rapid ILL のオンラインデモンストレーションやトライアル、お見積りのご依頼を随時承っております



日本の知を元気にする！

株式会社サンメディア アカデミックソリューション
〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 Port91
Phone: 03-3299-1575 e-mail: e-port@sunmedia.co.jp



お問い合わせフォームは
こちらから！

LIBRARY SOLUTION SERVICE

図書館サービスのご案内

ソフト・ハードの両面から図書館を支える「ワンストップサービスカンパニー」を目指し、図書館の持つ可能性を最大限に生かすことのできるソリューションをご提供しています。



図書館製本

創業以来培ってきた豊富なノウハウと高い技術力で、さまざまな製本に小ロットから大量発注まで柔軟に対応します。

- 雑誌合冊製本
- 新聞製本
- 論文製本
- 書類製本
- 簡易製本
- カルテ製本
- リーフレット製本
- 図書修理製本・再製本
- 和綴じ



資料保存

さまざまな資料の長期保存と活用のため、劣化・保存状況、目的やご要望に合わせて、適切な保存処置や環境整備をご提案します。

- 洋装本の修理・修復
- 裏打ち・すじはめ (リーフキャストイング)
- 軸装・額装の再仕立て
- 脱酸性化处理
- エンキャプスレーション
- 帙・四方帙の作製
- 環境調査
- 書籍クリーニング



デジタル・ソリューション

電子化・電子書籍の制作から、Web 公開用のシステム・ホームページの構築まで、資料の有効活用をサポートします。

- 画像データ化
- 大判スキャニング
- フィルムスキャニング
- 既存データの変換
- テキストデータ入力
- 閲覧・公開システム・ホームページの構築
- 機関リポジトリ構築支援



図書館運営サービス

部分的な業務から図書館全体の管理・運営まで、図書館のパートナーとして業務の効率化、サービスの向上に取り組みます。

- 図書・雑誌の受入・整理
- 製本準備・受入
- 装備
- 未整理資料の一括整理
- 閲覧・カウンター業務
- 蔵書点検
- 書籍移動・配架シミュレーション・書籍保管
- 図書館運営・指定管理



システム&サプライ

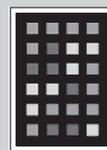
図書館の運用に欠かせないシステムやアイテムを数多く取り揃えています。

- 図書館システム
- ICシステム・ICタグ
- 自動貸出装置・無断持出し防止装置
- 磁気テープ
- 書架・整理収納用品
- 展示用品・保存用品
- 図書館空間デザイン
- ラベル・カード作成
- オンデマンド印刷



カメレオンコード

低コストで一括認識ができるカラー・コード (カメレオンコード) を活用した、効率的な蔵書管理ソリューションをご提案しています。



カメレオンコード

- N-CLASS 蔵書点検・所在管理システム
- 各種図書館システム連携

<カメレオンコード> は株式会社シフトの登録商標です。



ナカバヤシ株式会社 福岡支店 図書館ソリューション営業部

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11

TEL:092-641-3661 FAX:092-641-3699

HP : <https://www.nakabayashi.co.jp/> MAIL : toshokan@nakabayashi.co.jp

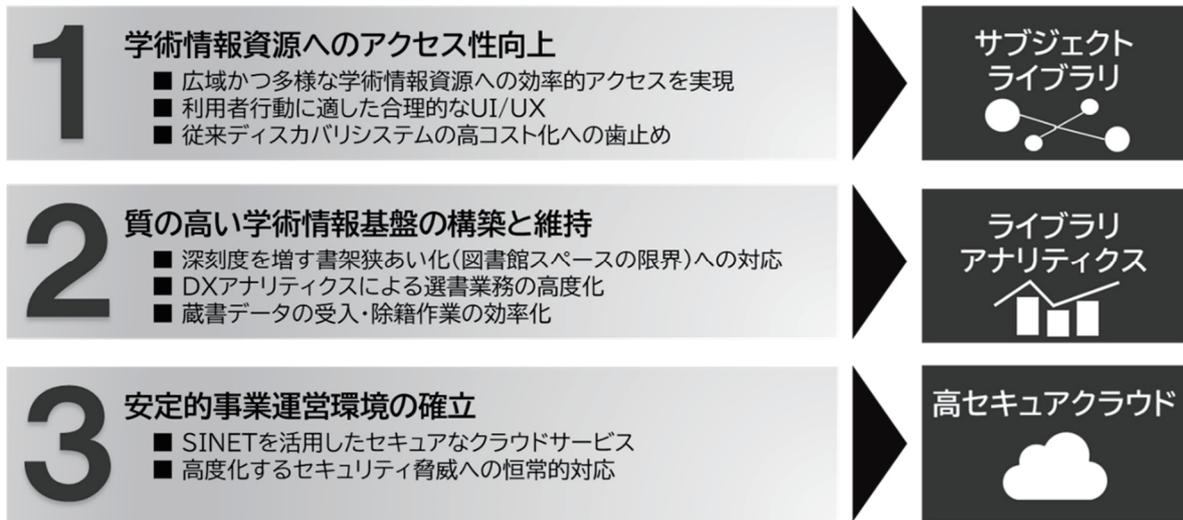


図書館情報システム NALIS

～図書館業務の高度化に繋げる『これからの図書館システム』～

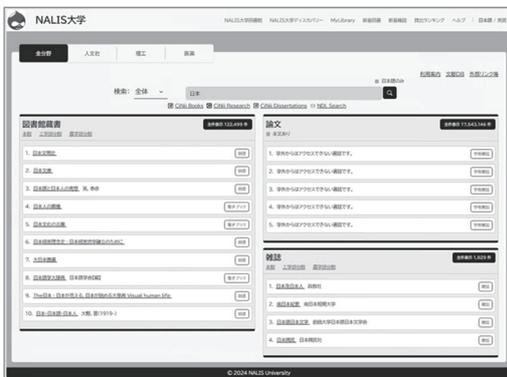
株式会社 NTT データ九州

図書館情報システム NALIS は、DX を活用し図書館事業の本質「学術情報の収集と維持」、
「学術情報へのアクセス性向上」に繋げる『これからの図書館システム』です。



利用者行動を追求した新しい情報発見環境
(従来ディスカバリサービスをアレンジした新しいサービス)
サブジェクトライブラリ

- 学術情報の質の違い(図書館蔵書、高度な論文等)が直感的に区別可能なUI/UX とレスポンス性を追求
- 学術分野(サブジェクト)ごとに情報発見環境を分割することも可能で、利用者が求める学術分野への適合性向上



最新のDX技術を活用した蔵書分析ソリューション
ライブラリ・アナリティクス

こんなお悩みはありませんか？

狭域化問題の
深刻度は増すばかり

地下やバックヤードは
段ボールの山

場当たりの除籍も
限界が見えている

ライブラリ・アナリティクスが、**蔵書構成を見える化** します

- 年代別の蔵書割合や利用状況を可視化します。
- 多階層の資料分類を配架レベルで分析可能です。

選書業務の高度化 も支援可能です

- 経年の分類別の資料購入状況を可視化します。
- 利用実態も合わせて分析可能です。



【お問い合わせ先】 株式会社 NTT データ九州

公共システム事業部 文教ビジネス統括部

電話 092-475-5145

Email nalis@nttdata-kyushu.co.jp

大学・研究室の コンピューター関連 / WEB制作は アプライドにお任せ下さい!



パソコン・ワークステーション・サーバー・NAS製品の導入・運用・修理

これまでに実績3,200件以上! 大学・研究室に特化したWEB制作サービス

アプライドはこれまでに40年間以上、全国の大学・研究室の先生をサポートしてきました。専門であるコンピューター関連はもちろんのこと、ソフトウェアの相談から、WEBサイトの制作まで幅広くご相談頂くことができます。現在なにかお困り事がございましたら、ぜひとも一度お気軽にご連絡下さい。必ずお力になってみせます。



パソコン・パーツ・
周辺機器販売



ワークステーション・
サーバー製造販売



ホームページ制作・
動画制作・広報支援



データマネジメント製品
ネットワークHDD/SSD
"D-Master シリーズ"



テクニカルサポート全般
修理・アップグレード
カスタマイズ作業
不具合・お困りごとサポート



PC、タブレット、計算機
IT機器各種レンタル事業



データ通信WIFI端末
データ通信用SIMカード
"ALTEEMシリーズ"



論文校正・
翻訳サービス



WEB会議システム
リモート環境の構築



大学・研究室向けのハードウェア製造・販売

アプライド SI統括営業部

SI福岡営業所 ◆営業担当：田中/富山/池松/高原
◆TEL：092-481-7802 ◆FAX：092-481-7651
◆E-mail：gaihan@applied-net.co.jp
◆営業時間：9:00~18:00（土・日・祝休）

アプライド Univ



検索



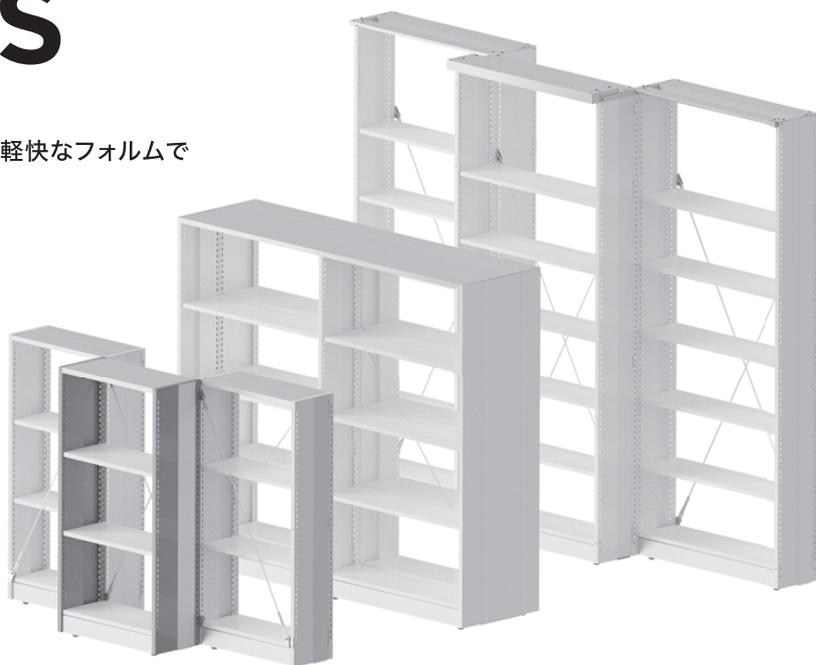
もっと自由に。 SIGMOS

シグモス [パネル書架]

柱のないパネル式書架は、柱式書架と比べ軽快なフォルムで
小規模図書館やオフィスにもマッチします。

Product Features

- 背面には開放感と剛性を両立させるブレース材を採用。
設計の自由度を高め、空間を自由に生かすことが可能。
- シグモスのパネルはS字型になっているのが特長で、
凹み部分に照明を組み込んだり多彩なカスタマイズが可能。
- 単式タイプを前後にずらして連結する「ジグザグレイアウト」も
特長のひとつ。状況に応じて増設、組み替えが自由。



よりよい保管システムを提供する

 **日本ファイリング**

日本ファイリング株式会社

本社 / 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11
大阪支店・名古屋支店・札幌営業所・仙台営業所・広島営業所・福岡営業所・北陸オフィス

ISO14001
ISO9001
認証取得企業

お申込み・お問い合わせ

<https://www.nipponfiling.co.jp>

広がります あなたの未来 政府刊行物

探したい本はここで見つかる。
政府刊行物のホームページ
<http://www.gov-book.or.jp/>

政府刊行物サービス・ステーション

天神:福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F)

TEL(092)721-4846

市役所:福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)

TEL(092)722-4861

県庁:福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)

TEL(092)641-7838

政府刊行物普及株式会社・官報サービスセンター

〒810-0001福岡市中央区天神 4-5-17

TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385

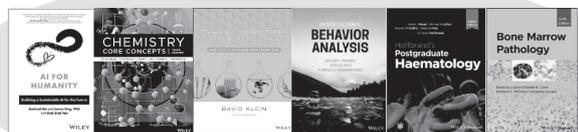
テキスト ベストセラー

Wiley の人気教科書タイトルが好評配信中！
採用校も多い教科書タイトルが多数！！

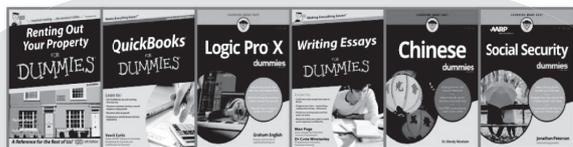
人文社会学関連



理工学関連



FOR DUMMIES®



政治、経済、歴史から数学、化学、物理学、生物学等々、幅広い分野から
1冊1トピックスで分かりやすく、楽しく入門レベルの知識を提供するシリーズです。

Health & Medical Science シリーズ



At a Glance シリーズや、ABC シリーズといった医学生や若手臨床医などのための
Wiley の医療・健康関連のタイトルを配信中！医学・歯学・看護学など幅広い
分野を英語で学べます。

詳細はお問合せください。

M MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 Maruzen eBook Library 担当
Tel: 03-6367-6008 Fax: 03-6367-6184 e-mail: melinfo@maruzen.co.jp
営業時間: 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、年末年始を除く)



紀伊國屋書店 学術電子図書館

KinoDen

Kinokuniya Digital Library

株式会社紀伊國屋書店 九州営業部

福岡営業所 TEL 092-437-5353 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-11 KDX博多南ビル6F
熊本営業所 TEL 096-322-5666 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-1 太陽生命熊本第2ビル2F
鹿児島営業所 TEL 099-223-4519 〒892-0847 鹿児島市西千石町17-3 太陽生命鹿児島第2ビル8F
沖縄営業所 TEL 098-887-3678 〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-99-1 まるしんビル
【本社】デジタル情報営業部 TEL 03-6910-0518 〒153-8504 東京都目黒区下目黒3丁目7番10号

- 紀伊國屋書店が経験とノウハウを活かして2018年に自社開発した電子書籍プラットフォーム
- 専門書・一般教養書を中心として、約11万点の「買切型」コンテンツを提供
- 読みやすいビューア、未購入タイトルも含めた全文検索や、ほぼ全点を試し読みできる等
「本当に使われる電子図書館」を目指しています
- 2025年12月現在、国内外の大学図書館のほか、企業・官公庁・公共図書館を含めて約540館が導入
- 連携アプリを無料提供。自分だけの本棚作成、書き込み、快適な閲覧で読書や研究をサポートします。



サブスクリプション&EBAプラン好評提供中！

- 新書・文庫・ガイドブック等の出版社別サブスクリプション（期間限定型パッケージ）商品を多数ご提供中。同時アクセス無制限のプランもございます。
- 一定期間フルアクセスをご提供→利用実績に基づいて購入いただけるEBA（Evidence Based Acquisition）モデルの商品もございます。
- 利用促進に、読書推進に、課題への活用に、ぜひご検討ください。



ラインナップはこちらから！

<https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/catalogue.html>

ミドリ印刷の2024年度
全印刷物を積み重ねた高さ **4,046m**※

富士山 標高 **3,776m**

富士山を超えた。*

信頼と実績。おかげさまで創業58周年

株式会社 ミドリ印刷

本 社 | 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南6丁目17番12号
(グループ本部) | TEL 092-292-0300 FAX 092-483-9089

営 業 部 | 〒812-0857 福岡市博多区西月隈1丁目2番11号
(工場部) | TEL 092-441-6747 FAX 092-473-1275

SUSTAINABLE GOALS
DEVELOPMENT

ミドリ印刷は持続可能な開発目標
(SDGs)を支援しています。

www.midori-p.com



TELECUBE by OKAMURA

フルクローズ型ワークブース [テレキューブ by オカムラ]



最高の集中環境をもたらす
フルクローズ型のワークブース

<https://www.okamura.co.jp/>

株式会社オカムラ 西日本支社

TEL:092-482-8822

九州地区大学図書館協議会誌 第68号

令和8年2月発行

発行 福岡市西区元岡744 九州大学附属図書館内
九州地区大学図書館協議会

T E L (092) 802 - 2470

F A X (092) 802 - 2474

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>

